京都市内遺跡試掘調査報告　平成二十九年度

京都市内遺跡試掘調査報告

平成２９年度

２０１８年3月

京　都　市　文　化　市　民　局

二〇一八　京都市文化市民局

京都市内遺跡試掘調査報告

平成２９年度

２０１８年3月

京　都　市　文　化　市　民　局

巻頭写真１　調査区全景（北西から）第Ⅳ章- 2

巻頭写真２　SK22出土遺物　第Ⅳ章- 2

例　言

1　本書は，京都市が文化庁の国庫補助を得て実施した平成 29 年度の京都市内遺跡試掘調査報告書である。平成 29 年 1 月から 12 月まで実施した試掘調査のうち，重要な成果のあったものについて本文で報告している。ただし，試掘調査の結果，発掘調査を指導したものについては，発掘調査報告書の刊行を待つこととし，一覧表にのみ掲載している。
試掘調査を実施したすべての地区・所在地・調査日・調査概要については，試掘調査一覧表に掲載している（41 ～ 49 頁）。なお，各章表題末尾の番号と調査一覧表の番号並びに図版の番号は対応している。

2　本文の執筆分担は，本文の末尾に記している。

3　本書報告の調査のうち，基準点測量を実施した調査の方位及び座標は，世界測地系平面直角座標系Ⅵによる。標高は T.P.（東京湾平均海面高度）による。また，これ以外の場合は，既存公共物などを仮基準点（KBM）として用いている。

4　本書に使用した地図は，本市の都市計画局発行の都市計画基本図（縮尺 1/2,500）を複製して調整したものを掲載している。なお図版に使用した地図の縮尺は以下のとおりである。
図版 1 ～ 13　1/8,000　　図版 14 ～ 20　1/10,000

5　本書で使用した遺物の名称及び形式・型式は，一部を除き，小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第 3 号　（財）京都市埋蔵文化財研究所 1996 年 に準拠する。

6　本書に使用した土壌色名は，農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帳』に準じた。

7　調査及び整理にあたっては，上茶谷美保・上別府亜紀・神所尚暉・熊代信吾・中村春美・早川仁志・義井良作・吉本健吾の協力を得た。

8　調査及び本書作成は，京都市文化市民局 文化芸術都市推進室 文化財保護課が担当し，（公財）京都市埋蔵文化財研究所の協力を得た。

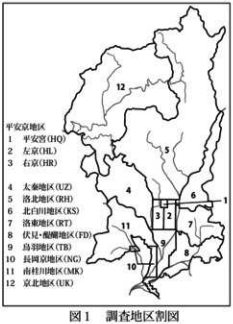


図 1　調査地区割図

本　文　目　次

Ⅰ　試掘調査の概要 ……1

Ⅱ　平安京左京 ……3
1　五条四坊十一町跡（下京区麩屋町通仏光寺下る鍋屋町 241-1） ……3

Ⅲ　平安京右京 ……8
1　九条一坊九町跡・西寺跡・唐橋遺跡（南区唐橋門脇町 23） ……8

Ⅳ　そのほか市内遺跡 …… 13
1　仁和寺院家跡（右京区宇多野御池町 6-2，6-3） …… 13
2　寺町旧域（上京区中筋通石薬師下る新夷町 390-2 他） …… 18
3　吉田泉殿町遺跡（左京区吉田泉殿町 34） …… 29
4　高台寺境内（雲居寺跡）（東山区下河原通八坂鳥居前下る下河原町 526） …… 33
5　長岡京左京三条三坊十六町跡（伏見区久我西出町 4-10） …… 36

Ⅴ　試掘調査一覧表 …… 41
報告書抄録 …… 50

図　版　目　次

巻頭図版１　　調査区全景
巻頭図版２　　ＳＫ 22 出土遺物

図版１　平安宮
図版２　平安京左京北辺～三条　一・二坊
図版３　平安京左京北辺～三条　三・四坊
図版４　平安京左京　四～六条　一・二坊
図版５　平安京左京　四～六条　三・四坊
図版６　平安京左京　七～九条　一・二坊
図版７　平安京左京　七～九条　三・四坊
図版８　平安京右京北辺～三条　三・四坊
図版９　平安京右京北辺～三条　一・二坊
図版 10　平安京右京　四～六条　三・四坊
図版 11　平安京右京　四～六条　一・二坊
図版 12　平安京右京　七～九条　三・四坊
図版 13　平安京右京　七～九条　一・二坊
図版 14　広沢古墳群・嵯峨遺跡・嵯峨折戸町遺跡・宝幢寺境内・史跡・名勝嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡・檀林寺跡・臨川寺境内
図版 15　史跡・名勝嵐山・嵯峨遺跡・仁和寺院家跡・太秦馬塚町遺跡・大雲寺跡・植物園北遺跡
図版 16　雲林院跡・上終町遺跡・北白川廃寺・白河街区跡・白河南殿跡・吉田泉殿町遺跡・寺町旧域
図版 17　中臣遺跡・法性寺跡・正覚寺・法住寺殿跡・勧修寺旧境内・山科本願寺跡（寺内町遺跡）・安楽行院跡・高台寺境内（雲居寺跡）
図版 18　史跡醍醐寺境内・福西古墳群・伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）・桂城跡・革嶋館跡
図版 19　鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡
図版 20　東院跡・長岡京跡・東土川遺跡・久我東町遺跡
図版 20　與杼神社旧境内・淀水垂大下津町遺跡・長岡京跡
図版 21　上久世遺跡・中久世遺跡・周山古墳群

挿　図　目　次

例　言
図１　調査地区割図 …… i
試掘調査の概要
図２　年次別・地区別試掘調査実施件数 …… 1
平安京左京五条四坊十一町跡
図３　調査位置図 …… 3
図４　調査区配置図 …… 3
図５　調査区平面断面図 …… 5
図６　調査区平面断面図２ …… 6
図７　出土遺物実測図 …… 7
平安京右京九条一坊九町跡・西寺跡・唐橋遺跡
図８　調査位置図 …… 8
図９　調査区配置図 …… 9
図 10　平・断面図 …… 10
図 11　出土遺物実測図 …… 11
図 12　西寺関連調査位置図 …… 12
仁和寺院家跡
図 13　調査位置図 …… 13
図 14　調査区配置図 …… 14
図 15　調査区平面断面図 …… 15
図 16　遺構平面断面図 …… 16
図 17　出土遺物実測図 …… 16
寺町旧域
図 18　調査位置図 …… 18
図 19　調査区配置図 …… 18
図 20　４区北壁・東壁断面図 …… 19
図 21　４区平面図 …… 20
図 22　４区遺構断面図立面図 …… 21
図 23　SE ４完掘状況（南西から） …… 22

図 24　SE15 完掘状況（南東から）…… 22
図 25　SE17 完掘状況（南東から）…… 22
図 26　SE22 完掘状況（北東から）…… 22
図 27　SE15 出土遺物実測図 …… 24
図 28　出土遺物実測図 …… 25
図 29　出土瓦実測図 …… 26
吉田泉殿町遺跡
図 30　調査位置図 …… 29
図 31　調査区配置図 …… 29
図 32　遺構平面図・断面図 …… 30
図 33　遺構面接合図 …… 31
高台寺境内（霊居寺跡）
図 34　調査位置図 …… 33
図 35　調査区配置図 …… 33
図 36　整地層断面（南東から） …… 34
図 37　調査区断面図 …… 34
図 38　出土遺物実測図及び拓影 …… 35
長岡京左京三条三坊十六町跡
図 39　調査位置図 …… 36
図 40　調査区配置図 …… 36
図 41　調査区平面断面図 …… 38
図 42　出土遺物実測図 …… 39

表　目　次

表 1　遺物概要表 …… 40

Ⅰ　試掘調査の概要

1　京都市内の埋蔵文化財行政

京都市で所管する周知の埋蔵文化財包蔵地（以下，遺跡という。）は，京北町との合併に伴う遺跡地図の改訂を経て，815件を数える。その範囲内でおこなわれる土木工事に対しては，遺跡の重要度と工事規模に応じて「慎重工事」・「詳細分布調査」・「試掘調査」・「発掘調査」の４種の行政指導をおこなっている。この指導業務は，当初，文化財保護課がおこない，昭和55年の京都市埋蔵文化財調査センター設立以後はセンターが担当してきた。しかし，センターが平成18年４月１日付けで文化財保護課と統合され，現在は文化財保護課埋蔵文化財係が担当している。

行政指導に基づいて実施される調査には，国庫補助による調査と原因者負担による調査があるが，詳細分布調査と試掘調査，発掘調査の一部については国庫補助事業として実施している。このうち，詳細分布調査と発掘調査は公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所（以下，「埋文研」という。）へ委託してきたが，平成26年４月１日から，文化財保護課埋蔵文化財係が担当しており，その成果は，別冊の報告書により報告される。

本報告書は，平成29年１月～12月に文化財保護課が実施した，国庫補助事業による試掘調査をとりまとめたものである。文化財保護課で実施する試掘調査は，届出や通知を受けた工事予定地内における遺跡の有無，あるいは遺跡の残存状況やその範囲を把握し，遺跡が良好に存在し，工事がその遺跡を破壊する場合には発掘調査を指導し，設計変更などにより遺跡の保護が可能であれば開発者に対して遺跡保護の措置を指示するなど，文化財保護行政上，非常に重要な業務であり，現在は９名の技師が常時，従事している。

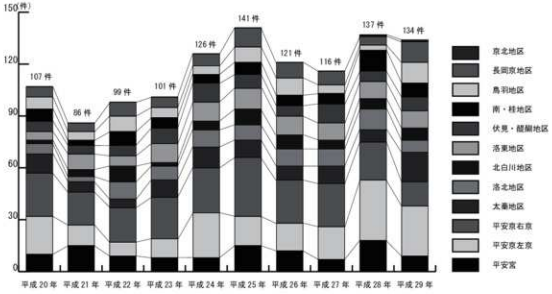


図２　年次別・地区別試掘調査実施件数

平成29年1月～12月に文化財保護法に基づいて提出された届出（文化財保護法第93条）・通知（同法第94条）件数は，総数で1,509件になる。これは前年比で43件（2.8%）の減少である。全国的に見て資産価値が高いとされる京都市内では，外国人旅行客の増加の影響もあり，全体の届出件数が前年度よりわずかに減少したものの，依然不動産市場が活況である。これらの届出・通知に対して，文化財保護課は詳細分布調査645件（前年643件，0.3%増），試掘調査149件（同140件，6.4%増），発掘調査14件（同11件，27.2%増），慎重工事701件（同757件，7.4%減）の指導をおこなった。

こうした指導に基づき，平成29年に文化財保護課が実施した試掘調査件数は134件である。届出内容は，昨年と同様に郊内外地に関わらず共同住宅やホテルの建設が多く見られるが，特に市街地ではそれらの件数が目立つ。地区別では，鳥羽地区および長岡京地区の件数が増加していることから，工場などの開発が活発になっていることがわかる。また，試掘調査や詳細分布調査の件数が増加する一方で，小規模工事に伴う慎重工事件数が昨年に比べると減少していることが届出件数の減少の理由の一つと言える。

2　平成29年の試掘調査概要

文化財保護課及び埋文研では京都市域を12のエリアに区分している（図1）。平成29年の試掘調査の地域別件数は，平安宮地区9件，平安京左京地区29件，平安京右京地区14件，太秦地区17件，洛北地域7件，北白川地区7件，洛東地区10件，伏見・醍醐地区8件，南桂川地区8件，鳥羽地区12件，長岡京地区12件，京北地区1件である。このうち26件（Ⅴ章・試掘調査一覧表参照）については発掘調査を指示し，うち埋文研が6件（No.4・27・61・127），株式会社イビソク（代表　野澤直人）が2件（No.47・99），公益財団法人元興寺文化財研究所（理事長　辻村泰善）が1件（№62），古代文化調査会（代表　家崎孝治）が3件（No.5・47・93），国際文化財株式会社（支店長　森下賢司）が1件（No.104），京都平安文化財（代表　栗田尚典）が1件（No.3），合同会社アルケス（代表社員　持田透）1件（No.43），株式会社四門（京都支店長　青山賢二）1件（No.114）の計14件の調査を年内に実施した。

発掘調査をおこなったことで顕著な成果が挙がった事案としては，12世紀の邸宅跡などで中国製のガラス水滴が平安京跡で初めて確認されたNo.62や，伏見城跡内で徳川期に築造された石垣や，関ヶ原の前哨戦で焼けた豊臣期の石垣や焼土層を確認した№114などがある。

ほかに工事の掘削深度が試掘調査で確認した遺構面より十分に浅いため，または設計や工法の変更により当面の保存が図られたなどの理由から，発掘調査に至らなかった例が3件（№15・25・54）ある。また，保存措置が講じられなかったものの報告すべき成果のあった調査3件（№85・96・97），過去の試掘調査の結果，遺構を検出し，発掘もしくは設計変更を前提に協議を進めていたが，設計変更により，報告すべき例について1件（H24試掘報告No.69）について，詳細を報告する。

（清水　早織）

Ⅱ-1　平安京左京五条四坊十一町跡　№54

1　調査経過（図３・４）

調査地は，麩屋町通と高辻通の交差点より北に位置する。左京五条四坊十一町の南西隅に相当し，敷地の東端部が推定される富小路の道路敷にかかる。四行八門制では西四行，北七・八門の範囲にあたる。今回，この区画にホテルの建設が計画されたため，試掘調査を実施した。

当該町域には，特に邸宅や諸施設が占地したとの記録はなく，鎌倉時代に民家があったことの表記にとどまる。

平成26年度に調査地より150ｍ程度北へ隔てた区画において行われた試掘調査では，GL-1.7mの深度において平安時代後期～鎌倉時代の整地層，-1.9mで平安時代中期～後期の整地層が確認され，発掘調査指導がなされている（16H041）[1]。また，平成29年度に行われた試掘調査では，大規模な近世の河川の氾濫により土壌が大きく損傷を受けるものの，局所的に平安時代中期の包含層が残存する状況が確認されている（17H188

図3　調査位置図（1：5,000）

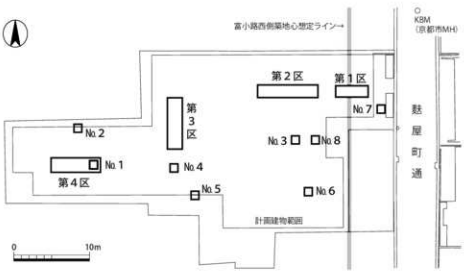


図4　調査区配置図（1：500）

本報告書調査一覧参照)。以上のことから，今回の調査においても平安時代の遺構面が残存する可能性は十分に予測された。

今回の試掘調査では，対象範囲内に４箇所の調査地（第１区～第４区）を設定した。その結果，一部の調査区において平安時代後期の遺構面を確認したため協議を行い，設計変更による遺構面の保存が図られた。また，工事施工時には立会調査を行い，計８箇所（№１～８地点）において土層断面の観察と遺構面の検出を部分的に行った。

２　調査成果（図５・６）

試掘調査の成果　推定富小路の道路敷上に設定した第１調査区では，KBM-1.0ｍまで近現代盛土，-1.3ｍまで褐灰色粘土質シルト（近世後期包含層），-1.5ｍまで灰黄褐色礫混じり粘土質シルト（鎌倉時代～室町時代包含層），-1.9ｍまで灰オリーブ色シルトと灰色粘土質シルトの混合層（平安時代後期整地層）があり，以下掘削底である-2.1ｍまで灰オリーブ色砂質シルトを主体とする地山が連続する。整地層の上面では南北方向にのびる溝（溝１：平安時代末～鎌倉時代）を１条検出したが，後世の攪乱により大きく損なわれていた。この溝が推定富小路の西側側溝または町域の内溝となる可能性は十分に考えられるが，限られた面積の検出であるため断定は難しい。溝１埋土からは，土師器皿（12世紀）が１点出土した。また整地層内からは白磁壷の破片（11世紀後半～12世紀）が１点出土した。

第１区の西側に設定した第２区では，近現代の火災処理土坑と井戸，近世後期堆積層が地山上面まで及ぶ状況を確認した。平安時代の遺構面は削平されており，認識することはできなかった。

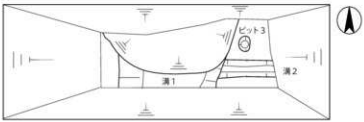
調査地の中央部付近に設定した第３区では，KBM-1.3ｍまで近現代盛土，-1.5ｍまで黄褐色粘土質シルト（近世包含層），-1.9ｍまで暗灰黄色粘土質シルト（室町時代後期包含層），-2.0ｍまで灰オリーブ色粘土質シルト（鎌倉時代包含層）があり，以下，掘削底である-2.3ｍまで浅黄色砂質シルトを主体とする混合層（平安時代後期整地層）が存在する。遺構面は，室町時代包含層除去面（第１面）と平安時代後期整地層上面（第２面）の計２面を認識した。

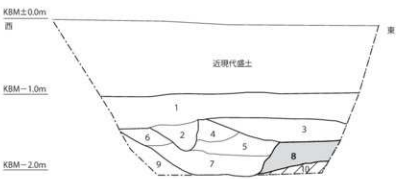
第１面では，壁断面において土坑を２基検出した。両者は切り合う関係にあり，上位遺構からは15世紀，下位遺構からは14世紀の遺物が出土した。第２面では，平面検出において土坑１基とピット４基を検出した。このうち土坑４は大型遺構で，最大深度は0.3ｍ以上を測る。埋土からは土師器皿（11世紀）が出土した。

調査地の西端に設定した第４区では，KBM-1.5ｍまで近現代盛土，-1.9ｍまで褐灰色礫混じり粘土質シルト（近世後期包含層），もしくはオリーブ褐色粘土質シルト（室町時代包含層），-2.3ｍまで鈍い黄褐色粘土質シルト（平安時代末期～鎌倉時代包含層）があり，これ以下が黄灰色砂質シルトを主体とする地山となる。第３区以東で見られた平安時代後期整地層は残存しない。室町時代包含層除去面では壁面においてピットを１基検出した。掘方の径は0.6～0.9ｍ，深度は0.4ｍ以上を測る。埋土からは灰釉陶器破片，瓦質土器鉢（15世紀），土師器皿（14世紀）が出土した。

立会調査の成果　立会調査のうち№５地点では遺構の平面検出を，№６，№８地点では断面検出を

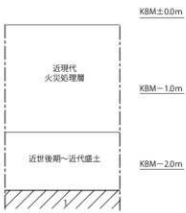
【第１区】





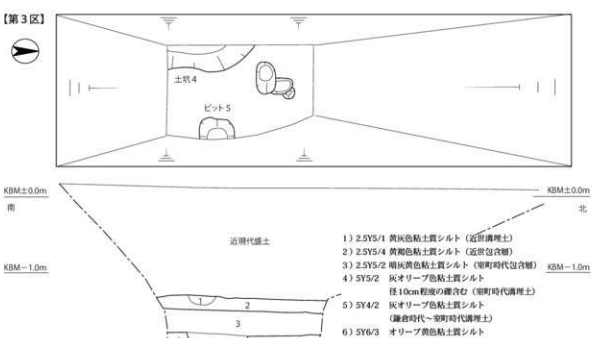
1）10YR5/1　褐灰色粘土質シルト（近世後期包含層）
2）10YR5/3　鈍い黄褐色粘土質シルト
3）10YR4/2　灰黄褐色礫混じり粘土質シルト（鎌倉時代～室町時代包含層）
4）2.5Y5/2　暗灰黄色粘土質シルト　径2cm未満の礫多量に入る
5）5Y4/2　灰オリーブ砂質シルト
6）2.5Y4/4　オリーブ褐色砂質シルト（平安時代末～鎌倉時代溝埋土）
7）2.5Y5/4　黄褐色粗砂～砂質シルト（平安時代末～鎌倉時代溝埋土）
8）5Y5/2　灰オリーブ色シルト～粘土質シルト　土器片入る（平安時代後期整地層）
9）10Y5/1　灰色砂質シルト
10）7.5Y5/2　灰オリーブ色砂質シルト（地山）

【第２区】



1）2.5Y4/1 黄灰色粘土質シルト（地山）

【第３区】



1）2.5Y5/1 黄灰色粘土質シルト（近世溝埋土）
2）2.5Y5/4 黄褐色粘土質シルト（近世包含層）
3）2.5Y5/2 暗灰黄色粘土質シルト（室町時代包含層）
4）5Y5/2　灰オリーブ色粘土質シルト
　　径10cm程度の礫含む（室町時代溝埋土）
5）5Y4/2　灰オリーブ色粘土質シルト
　　（鎌倉時代～室町時代溝埋土）
6）5Y6/3　オリーブ黄色粘土質シルト
7）5Y4/1　灰色粘土質シルト
　　（平安時代末期～鎌倉時代初頭土坑４埋土）
8）5Y7/4　浅黄色砂質シルト（平安時代後期整地層）

図5　調査区平面断面図（１：50）

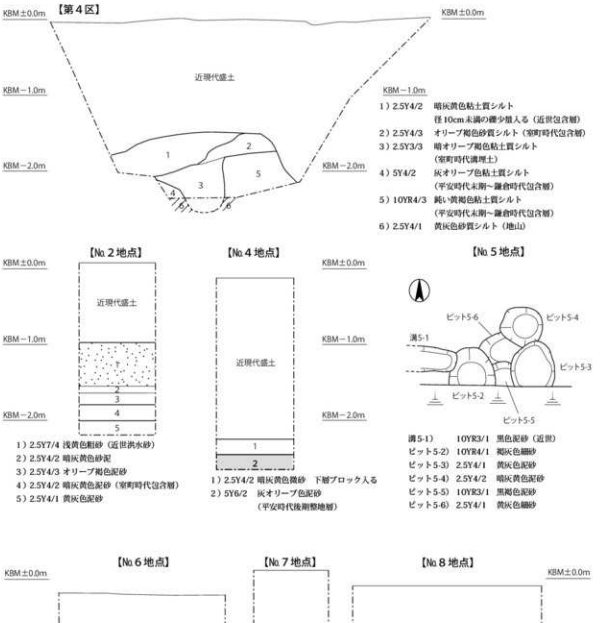
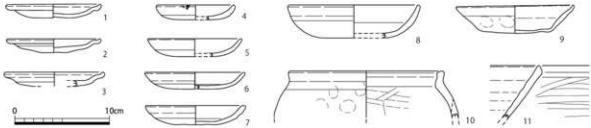


図6　調査区平面断面図２（１：50）



1，3，5～9，11……№5地点ピット5-3出土　2……№5地点ピット5-6出土，4・10……№6地点ピット6-3出土，9……№2地点4層出土

図7　出土遺物実測図（1:4）

おこなった。№5地点では，ピット5基が切り合う状況が確認された。出土遺物から，最も上位のピット5-3が13世紀前半，これに切られるピット5-4が12世紀，さらにこれに切られるピット5-6が11世紀～12世紀に埋没したと推定される。

各地点における堆積層序を比較すると，地山上面が最も高いのは調査区の北東部で，西・東方向へ徐々に下がる。調査地の北西部には平安時代後期整地層が残存するが，西端と南端では平安時代末～鎌倉時代の包含層に削平され，遺構埋土としてのみ存在している。鎌倉時代，室町時代の包含層は部分的な損壊を受けるものの全域に認められ，遺構の残存も良好であることが明らかとなった。

3　まとめ

以上，試掘調査及び立会調査の成果を報告した。調査地は平安京左京四条付近という好立地にありながら，これまで土地の履歴が明らかにはされてこなかった町域にあたる。今回の調査では，対象地全域に室町時代，鎌倉時代の遺構群が存在すること，また部分的に平安時代後期の整地層が残存し，平安時代に遡る遺構も遺存することが明らかとなった。

協議の結果，今回の工事計画は遺構面を保護することを目的とした大幅な設計変更が行われることとなったが，引き続き周辺の開発に対する注視が必要であると言えよう。

なお，今回の調査では推定富小路に関わる可能性がある遺構を発見したが，断定しにくい状況下にある。これについても今後の周辺調査が待たれるところである。

（黒須　亜希子）

註

1）熊谷舞子，「Ⅱ-6　平安京左京五条四坊十町跡　№67」，『京都市内遺跡試掘調査報告』平成28年度，京都市文化市民局，2017年

Ⅲ-1　西寺跡・平安京右京九条一坊九町跡・唐橋遺跡　№69（平成24年度）

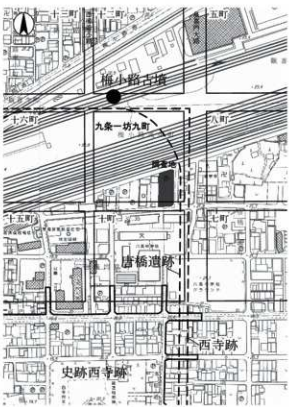


図8　調査位置図（1：2,500）

1　はじめに（図8）

調査地は，南区唐橋に所在する京都市立八条中学校北側の敷地で，平安京右京九条一坊九町跡と唐橋遺跡に該当する。東寺と左右対称の位置（平安京右京九条一坊九～十六町）には西寺が造営されるが，今回の調査地は，西寺の北東部に位置し，大衆院想定地にあたる。この場所で福祉施設建設の計画があったため，平成24年に試掘調査をおこなった。

調査の結果，平安時代の掘立柱穴や弥生時代の溝を検出したため，発掘調査もしくは計画建物の設計変更を指導した。しかし，その後，計画は大幅に変更となり，平成28年に宅地造成として新たに届出がされた。新たな計画は地下遺構への影響が比較的軽微と考えられるため，各戸（13戸）建設時の詳細分布調査を指導し，平成28・29年度に立会調査をおこなった。今回平成24年度の試掘調査とあわせて報告する。

周辺の調査では，南の八条中学校で昭和53年度[1]と昭和63年度[2]に発掘調査をおこない，政所院にかかわる建物群を検出している。また，今回の調査地の西隣では平成28年度に発掘調査をおこない，平安時代の掘立柱建物と弥生時代の方形周溝墓を検出している[3]。

今回報告する試掘調査は平成24年4月12日におこなった。調査面積は33㎡である。また，詳細分布調査は平成28年5月14日から平成29年3月6日の間に25地点で土層および，遺構の確認をおこなった。

2　層序と検出遺構（図9・10）

［試掘調査］

調査区は，計画建物範囲を対象とし，南北方向に1区，その北側に東西方向の2区，敷地南東部に3区を設定した。

基本層序は現代盛土，褐色泥砂（平安時代整地層①），灰褐色シルト（平安時代整地層②），褐灰

色細砂（地山）である。平安時代整地層①，平安時代整地層②，地山がそれぞれ遺構面となる。

遺構は１区で検出した。検出した遺構は平安時代の掘立柱列，土坑，ピット，弥生時代の溝である。

平安時代の掘立柱列１は，平安時代整地層①上面で６間分を検出した。１区西壁で検出したため，平面形は不明だが一辺0.5～0.6mで深さ0.4～0.5m程度残存していた。柱間は北から５尺＋５尺＋６尺＋６尺＋５尺である。調査区南端から約10.5mの位置で検出した柱穴が北端とみられ，南端は調査区外となる。今回の試掘調査では，調査区の制約からこの柱列に平行する柱列を検出していないが，桁行６間以上の南北棟建物の可能性が高い。

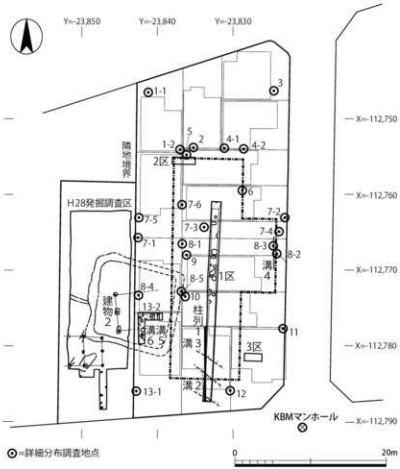


図９　調査区配置図（１：500）

そのほか，平安時代整地層①，②上面でピットを検出しているが，建物として復元できるものはない。また，柱穴列を切る土坑を平安時代整地層①上面で検出した。

地山上面では，弥生時代の溝を２条検出した。南の溝２は幅3.5mで北西から南東方向のものである。北の溝３も同じ方位であるが，南肩を検出したのみで規模はわからない。周辺の調査成果から，方形周溝墓の可能性もあるが，調査区が狭小なため詳細は不明である。また，３区でも弥生時代の土層を確認した。溝３の延長の可能性があるが，詳細はわからない。

［詳細分布調査］

25地点のうち，12地点（1-1，2，3，5，6，7-2，7-5，7-6，8-1，8-4，8-5，11）は掘削が現代盛土内でおさまっていることを確認した。遺物包含層を検出したのは4-1，4-2，8-2，8-3，9，13-2の６地点で，遺構を検出したのは8-2，8-3，13-2の３地点である。

8-2，8-3で検出した溝４は幅約0.4m，深さ約0.1mの南北溝である。正方位であることから，西寺にかかわる区画溝の可能性がある。

13-2で検出した遺構は溝２条，ピット５基である。溝５は西肩を検出したのみであるが，幅は0.4m以上の南北溝である。溝６は溝５の西約0.3mに位置し，幅0.4mの南北溝である。ともに正

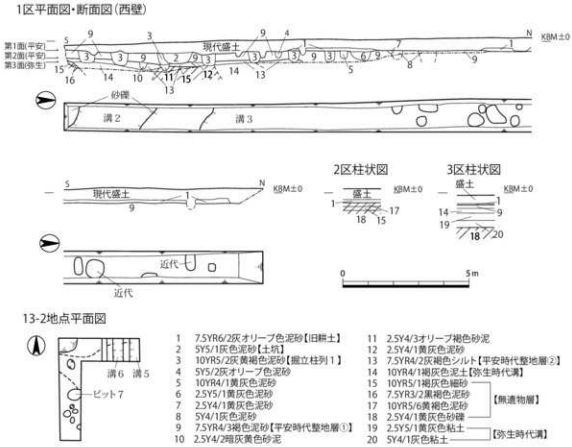


図10　平・断面図（1：150）

方位であり，西寺にかかわる区画溝の可能性がある。ピットは直径0.2m～0.5mのもので，13-2地点の南半に集中する。このうち直径0.5mのピット7は，その位置や規模などから，平成28年度に西隣地で検出した建物２の柱穴である可能性が高い。

3　遺　物

試掘調査１区９層（平安時代整地層①）から須恵器と灰釉陶器が出土した。

須恵器は椀１点（図11-１）と杯２点（図11-2・3）が出土した。椀は口径16.0㎝である。

灰釉陶器は杯１点で，高台部が残存するのみである。いずれも小片で詳細は不明だが，平安時代前期のものとみられる。

4　まとめ

今回の調査では，試掘調査で掘立柱列を検出したことが大きな成果である。６間分を検出したが，建物であるなら南北に長大な建物となる。当該地の南の八条中学校敷地内では東西に長い建物がみつかっている。今回の調査でみつかった柱穴列が同様のものの可能性もあり，西寺雑舎域の様相を知る重要な成果といえる。また，平安時代の整地層を２層検出したことは，平安京遷都にともない西寺を造営する際に整地した後，雑舎域の再整備をおこなったことを示す。上層の整地層（平安時

代の整地層①）から平安時代前半の遺物が出土していることから，その時期を推定することができる。

一方，平安時代の下層から弥生時代の溝を検出し，それが周辺の調査成果から方形周溝墓の可能性があることも重要な成果である。今回検出した溝は幅が広いため，一概に方形周溝墓とは言い切れないが，当該地周辺には弥生時代の遺構群が広がっていることは確かである。唐橋遺跡は弥生時代から古墳時代の集落跡とされているが，集落と墓域の位置関係を理解するうえで今回の調査成果の意義は大きい。　（家原　圭太）

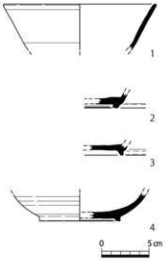


図11　出土遺物実測図（1：4）

註

1）財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市埋蔵文化財調査概要　昭和53年度』2011年。

2）財団法人京都市埋蔵文化財研究所『京都市埋蔵文化財調査概要　昭和63年度』1993年。

3）公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所『平安京右京九条一坊九町跡・唐橋遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2016-4，2016年。

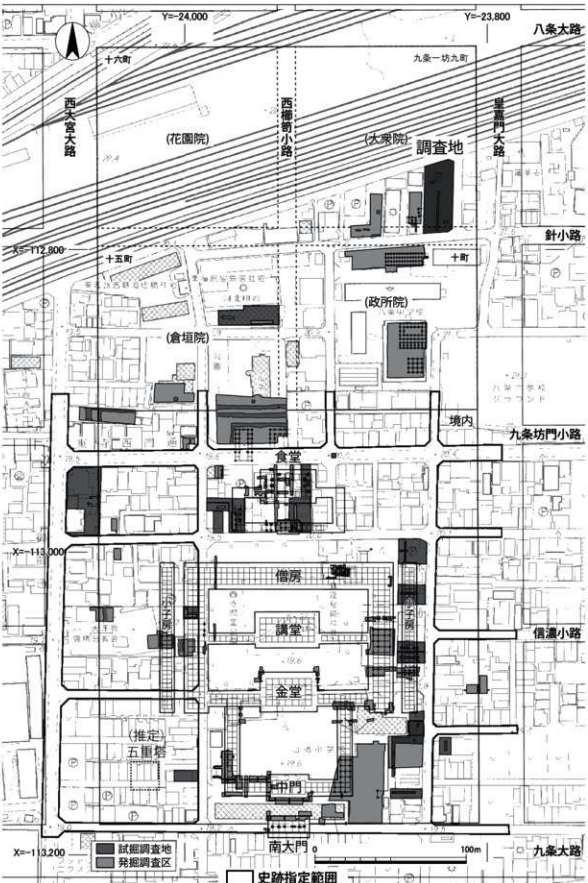


図12　西寺関連調査位置図（1：2,500）

Ⅳ-1　仁和寺院家跡　№85

1　調査経過（図13・14）

調査地は，京福電鉄北野線の宇多野駅より北東に位置する。光孝天皇後田邑陵の南に隣接しており，かつては光和庵と号する寺院が立地した敷地にあたる。北東から南西に向かって開く扇状地形の一端にあり，仁和寺が所在する高台とは約10mの比高差を測る[1]。

今回，この区画に宅地造成が計画されたため，平成27年5月27日に試掘調査を実施した。調査区は，専用道路計画地の2箇所に設定したが，このうち南側に設定した第2区において室町時代の遺構面を確認した。このため，試掘調査を延長し，9月11日～14日に記録保存を行った。本稿では，当初の試掘調査と，延長調査の成果をあわせて報告する。

仁和寺院家跡は，双ケ岡の東西に設けられた仁和寺の院家跡であり，宇多天皇が出家し，仁和寺へ入った際に従った皇族等が居住した地であ

図13　調査位置図（1：5,000）

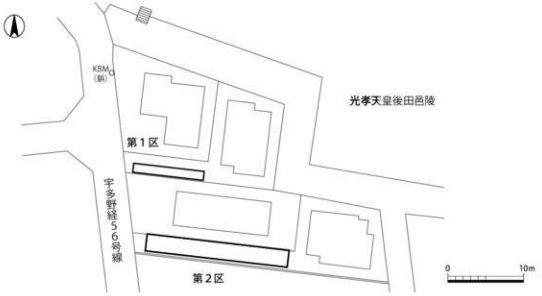


図14　調査区配置図（1：500）

るとされる。周辺には大教院・南院（常瑜伽院）・大聖院・真光院（蓮華心院）等の寺院が建立されたことが記録に残っており，今回の調査地周辺は大教院及び成就院が存在したと考察される[2]。

周辺では，平成20年度に調査地より東へ200ｍ隔てた区画において試掘調査（08S336）が行われており，GL-0.1～0.2ｍの深度において地山が確認されている。またその東側では，平成17年度に試掘調査（04S578）が行われており，地山上面において，平安時代の瓦を含む溝が検出されている。これらの調査成果より，遺構面までの深度は非常に浅いこと，また寺院に関連する遺構が残存する可能性が高いことが予想された。

2　調査成果（図14～16）

北側に設定した第１区の基本層序は，KBM-0.3ｍまで近現代盛土であり，その深度においてオリーブ褐色粗砂混じりシルトを主体とする地山に達する。その間に氾濫堆積（土石流？）とみられる暗灰黄色礫混じりシルトが介在するが，しまりが良く，出土遺物も認められないことから，地山の一部と判断した。地山上面において精査を行ったが，明確な遺構を確認することはできなかった。

南側に設定した第２区の基本層序は，GL-0.15ｍまで現代盛土，-0.35ｍまで近世包含層，-0.45ｍまで中世後期包含層であり，この段階で黄褐色粗砂混じりシルトを主体とする地山に達する。遺物は中世後期包含層より多量に出土し，この包含層を除去した面（＝地山上面）において，当該時期の遺構群を検出した。なお，地山上面には第１区と同様，土石流とみられる氾濫堆積を複数条確認した。

遺構面は，後世の造作により東から西へ階段状に成形されたため，部分的に削平を受ける。

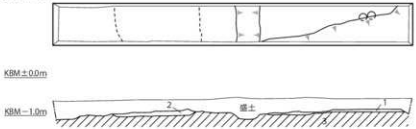
検出した遺構は，溝３条，土坑２基，柱穴５基で，少なくとも３期の切り合いを認めることができる。出土遺物の製作時期はおおむね12世紀～15世紀である。遺構の深度は総じて浅く，残存状況は悪い。

土坑２　第２区中央付近において検出した遺構である。平面形状は南北に長い隅丸方形で，最大長1.9ｍ，最大幅1.05ｍ，最大深度は0.18ｍを測る。埋土はオリーブ黒色粘土質シルトを主体とし，炭と焼土を少量含む。その平面形状から土坑墓の可能性を考えたが，証左となりえる遺物は確認できていない。埋土からは平安時代後期の軒平瓦（図17-10），縄目と布目をもつ平瓦（図17-11・12，土師器皿（図17-2）等が出土した。

溝３　第２区東半部において検出した直線溝である。検出長は8.9ｍ，最大幅は0.7ｍ，最大深度は0.1ｍを測る。遺構の主軸はほぼ東西で，現在の敷地割に近い。埋土は黒褐色粗砂混じり粘土質シルトで部分的に焼土を含む。石列を伴う箇所があり，これが平坦面を南にそろえる。このことから，溝３は石を配列するための掘り込みであることがわかる。土地を段状に整形するための土留め石列もしくは，石組み水路の片岸であると解される。石列を覆う層からは，土師器皿（図17-１・３～５，14世紀）が出土した。

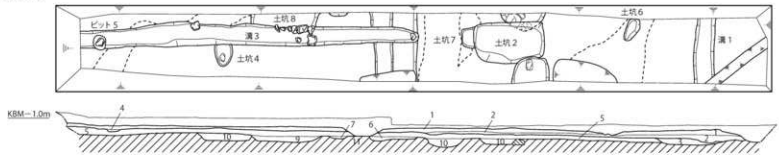
土坑４　第２区東半部において検出したピットである。平面形状は南北に長い楕円形で，南端を溝

【第１区】



K１）2.5Y3/1　黒褐色粗砂混じり粘土質シルト　径2cm未満の礫少量入る　炭化物・土器片微量入る
　　ややしまり悪い（中世包含層）
２）2.5Y4/2　暗灰黄色礫混じりシルト　径3cm未満の礫多量入る　しまりやや悪い（旧河跡）
K３）2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂混じりシルト　径2cm未満の礫多量入る　しまり良い（地山）

【第２区】



１）2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂混じり粘土質シルト　径１cm未満の礫少量入る　擬洗痕跡あり　陶磁器片入る　しまりやや悪い（近世後期埋積層）
２）2.5Y4/3　オリーブ褐色粗砂混じりシルト　径3cm未満の礫多量入る　擬洗痕跡あり　土師器片少量入る　しまり悪い（中世包含層）
３）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じり粘土質シルト　径3cm未満の礫多量入る　しまり悪い（溝１埋土）
４）10YR4/2　灰黄褐色粗砂混じりシルト　径１cm未満の礫少量入る　しまり悪い
５）10YR4/3　鈍い黄褐色粗砂混じり粘土質シルト　径５cm未満の礫少量入る　土師器片多量入る　ややしまり良い（中世包含層）
６）2.5Y3/2　黒褐色粗砂混じりシルト　径２cm未満の礫少量入る　しまり悪い
７）2.5Y4/2　暗灰黄色細砂混じりシルト　径１cm未満の礫少量入る　炭化物・土師器片少量入る　しまり悪い
８）10YR4/3　鈍い黄褐色粗砂混じりシルト　径２cm未満の礫少量入る　炭化物・焼土塊多量入る　しまりやや悪い
９）2.5Y4/1　黄灰色粗砂混じりシルトに　2.5Y2/1　黒色粘土質シルトブロック10%程度入る　径２cm未満の礫少量入る　土師器片入る　ややしまり悪い
10）10YR4/2　灰黄褐色粗砂混じりシルト　径５cm未満の礫少量入る　ややしまり悪い
11）10YR4/4　褐色細砂〜シルトに　10YR4/3　鈍い黄褐色礫混じりシルトブロック5%程度入る　径0.5cm未満の礫少量入る　しまりやや良い
12）N5/0　灰色シルト　径１cm未満の礫少量入る　やや軟質　しまり良い（地山）

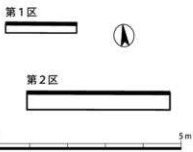


図15　調査区平面断面図（１：100）

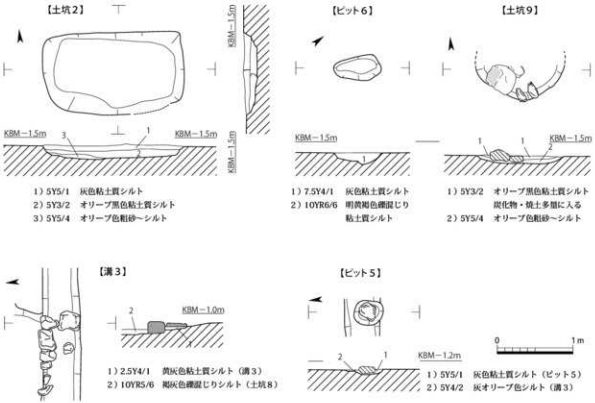
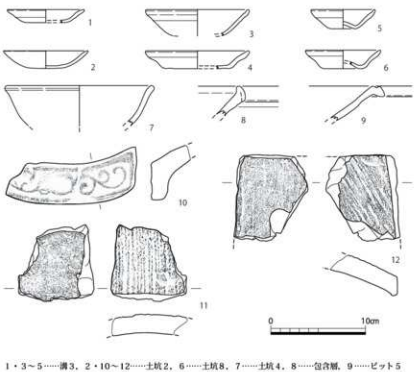


図16　遺構平面断面図（1：50）



1・3～5……溝3，2・10～12……土坑2，6……土坑8，7……土坑4，8……包含層，9……ピット5

図17　出土遺物実測図（1：4）

3に切られる。検出長0.6 m，最大幅0.45 m，最大深度は0.1 mを測る。北半部に礎石と見られる平石を配する。埋土から青磁碗の破片（図17-7，14世紀）が出土した。

ピット5　第2区東端部において検出した。溝3を切って成立する。最大径0.5 m，最大深度は0.1 mを測り，中央に一辺0.2 m程度の平石を据える。礎石建ち建物の柱穴と解されるが，対応する遺構は確認できていない。埋土からは瓦質土器鍋（図17-9，15世紀）の破片が出土した。

土坑9　今回検出したもっとも早い段階の遺構である。一部を土坑2に切られるが，平面形状は径1.2 m程度の円形に復原できる。埋土には一辺0.3 m未満の角礫が複数配されている。埋土には炭や焼土が多量に含まれており，石肌も被熱により変色する。埋土から土師器皿（12世紀）の破片が出土した。

3　まとめ

以上，今回の調査成果を記述した。これまで調査地を含む一帯は，大教院もしくは成就院の一部であると推定されてきた。大教院は11世紀後半に聡子内親王が後三条天皇のために創建したと伝えられる寺院であり，さらに1139年に焼失したとされている。今回，焼土や炭化物，瓦片を含む当該時期の遺構を確認したことは，重要な成果として注目されるところである。

なお，今回の調査地周辺は，遺構面までの深度が非常に浅いことが，改めて追認された。このため，周辺の開発については掘削深度が浅い軽微な掘削であっても注視する必要がある。

註

1）東　洋一・加納敬二 「嵯峨野における秦氏の到来期について　－地形から見た嵯峨野の開発過程－」『研究紀要　第10号　－（財）京都市埋蔵文化財研究所　設立30周年記念号－』 2007年

2）津々池愨一 「仁和寺西端域の子院等小考」『研究紀要　第8号　－（財）京都市埋蔵文化財研究所　設立25周年記念号－』 2002年

（黒須　亜希子）

Ⅳ-2　寺町旧域　№96

図18　調査位置図（1：5,000）

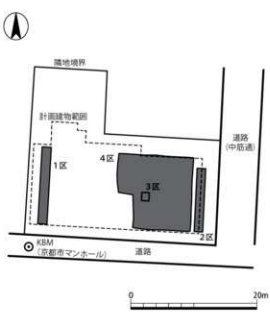


図19　調査区配置図（1：600）

1　調査の経緯

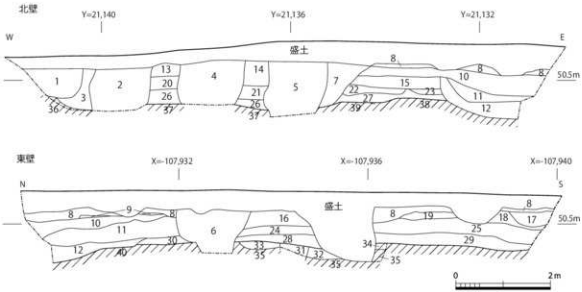
調査地は上京区新夷町に所在し，周知の埋蔵文化財包蔵地「寺町旧域」に該当する。当該地において，共同住宅新築が計画され，平成29年6月19日付けで文化財保護法第93条第1項に基づく埋蔵文化財発掘の届出がなされた。これを受け，当課は平成29年6月22日に試掘調査を実施した（図19-1～3区）。この結果，敷地の東半を中心に一部で遺構面が遺存することが明らかとなったため，同年8月29日から9月7日にかけて補足調査を実施した（図19-4区）。実働は合計9日間で，調査面積は1～3区が31㎡，4区が127㎡である。4区の一部が3区と重なるため，調査面積の合計は156㎡となる。本報告では，主に4区の成果を報告する。

2　位置と周辺調査

貞享3年（1686）の京大絵図[1]では，今回の調査地である本禅寺の北側には，法性寺が描かれる。現在，法性寺は左京区の京阪電車出町柳駅の南側に移転している。新夷町は，元禄6年（1693）に移転した真如堂跡地に，元禄16年（1703），猪熊通丸太町の旧地から移転したことで成立したとされる[2]。しかし，絵図では真如堂は当該地よりも北側，今出川通に面して描かれており，真如堂を含んだ数ヶ寺の跡地と理解すべきであろう。真如堂の移転は元禄5年（1692）の寺町火災の罹災が主要因であり，元禄9年（1696）の京図[3]では，今回の調査地（法性寺旧地）を含めた一帯が空閑地となっている。これは，火災の頻発した17世紀後半に，公家町周辺

の火除地として設定されたことによる[4]。本禅寺北側は享和２年（1802）の内裏図[5]では「安禅寺杉坊」，幕末の文久３年（1863）の内裏図[6]では「杉坊」，と記入されている。安禅寺杉之坊は中世には皇女が入室した門跡の里坊で，宝永の大火（1708）以前の絵図からは，現在京都迎賓館が建つ地点に所在したことが判明する。宝永の大火後に公家町で行われた大規模な再編事業によって，移転したと考えられる。しかし安禅寺杉之坊の実態は判然とせず，土地利用の変遷解明が今回の調査の主課題となった。

今回調査地の西側を通る寺町通西側では，公家町遺跡の調査が過去に実施されている。図17の調査地点１[7]では，平安時代から近世にいたる遺構・遺物を検出し，土地利用の変遷が明らかとなった。調査地点２[8]では，秀吉による京都改造事業の年代を示す「天正拾八年」（1590）銘棟端瓦が出土するとともに，公家町の変遷を示す遺構群や平安時代前期の一条大路末を検出している。



1　2.5Y3/1黒褐色泥砂（炭化物含む）〔石組み井戸〕
2　2.5Y4/2案灰黄色泥砂（炭化物含む）〔石組み井戸〕
3　2.5Y3/2黒褐色砂泥（φ3～5cmの礫少量含む）
4　2.5Y3/2黒褐色泥砂（炭化物，φ1～5cmの礫含む）
5　10YR3/3暗褐色粗砂〔漆喰井戸裏込め〕
6　10YR3/3暗褐色砂泥（φ3～10cmの礫含む，焼土・炭化物少量含む）
7　10YR3/2黒褐色泥砂（焼瓦，φ5～10cmの礫含む）
8　7.5YR4/3褐色微砂（焼土多量に含む）
9　2.5Y7/3浅黄色粗砂
10　7.5YR4/2灰褐色泥砂（焼土含む，φ3～5cmの礫少量含む）
11　10YR4/2灰黄褐色泥砂（φ5cmほどの礫多量に含む）
12　10YR4/2灰黄褐色泥砂（炭化物含む）
13　2.5Y3/1黒褐色泥砂（φ0.5～3cmの礫含む）
14　2.5Y3/1黒褐色泥土（瓦片多量に含む）
15　10YR3/2黒褐色泥砂（炭化物，φ1cm大の礫少量含む）
16　2.5Y3/2黒褐色砂泥（φ3～5cmの礫少量含む）
17　10YR3/3暗褐色泥砂（φ5cmほどの礫多量に含む）
18　10YR3/2黒褐色泥砂（炭化物多量に含む）
19　10YR4/3にぶい黄褐色砂泥（φ1～5cmの礫含む）
20　2.5Y3/1黒褐色泥砂（炭化物，細礫含む）
21　10YR3/2黒褐色細砂（細礫含む）
22　2.5Y3/2黒褐色砂泥（φ0.5～3cmの礫含む）
23　10YR4/3にぶい黄褐色砂質シルト（φ3～5cmの礫含む）
24　2.5Y4/1黄灰色砂泥（φ5～10cmの礫含む）
25　10YR4/2灰黄褐色泥砂（炭化物，φ1～10cmの礫含む）
26　2.5Y5/2明灰黄色砂質シルト（φ3～10cmの礫含む）
27　2.5Y5/2明灰黄色砂質シルト
28　2.5Y5/2明灰黄色砂泥
29　10YR4/4褐色砂泥（φ1cm礫少量含む）
30　10YR5/3にぶい黄褐色砂泥（φ1～2cmの礫少量含む）
31　2.5Y4/1黄灰色微砂（SE4裏込め）
32　2.5Y6/3にぶい黄色微砂
33　2.5Y6/2灰黄色砂質シルト
34　10YR5/2にぶい黄褐色砂質シルト（細礫含む）〔地山〕
35　2.5Y5/3黄褐色砂礫（固く締まる）〔地山〕
36　2.5Y6/4にぶい黄色細砂〔地山〕
37　2.5Y7/6明黄褐色砂礫（固く締まる）〔地山〕
38　10YR2/1黒色砂礫〔地山〕
39　2.5Y6/3にぶい黄色シルト〔地山〕
40　10YR4/4褐色微砂〔地山〕

図20　４区北壁・東壁断面図（１：80）

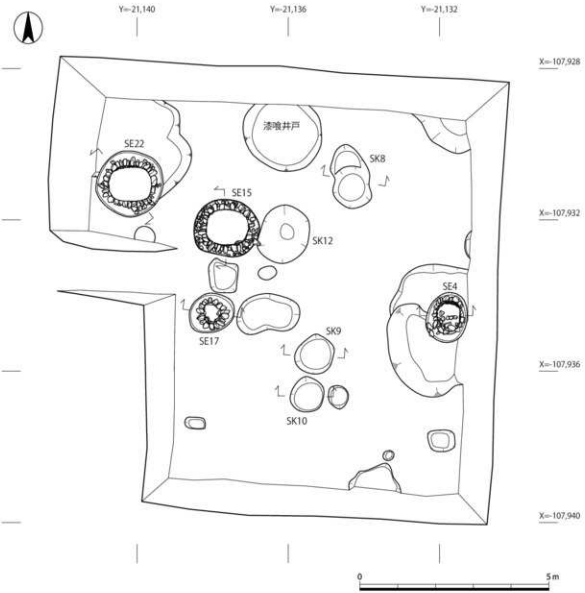


図21　4区平面図（1：100）

3　層序と遺構

基本層序（図20）

現地表面は東から西へと緩やかに傾斜し，調査区の東端でT.P.51.2m程度，西端でT.P.51.0m程度である。層序は現地表面から層厚0.2～0.5mの現代盛土，層厚0.1m程度の火災層，0.6～0.8mの近世後期遺物包含層となり，おおむねGL-1.5mで砂質から砂礫質の強い地山となる。火災層は幕末の禁門の変に伴う元治の大火によるものと推定できる。また，近世後期遺物包含層は2～3層程度に分層できる。地山上面で遺構検出をおこなった。

遺構（図20・21）

遺構総数は20基であり，内訳は井戸4基，土坑9基，ピット5基，性格不明遺構2基である（欠番が生じたため，遺構数と遺構番号に用いた数は一致しない）。この数には検出時点の出土遺物か

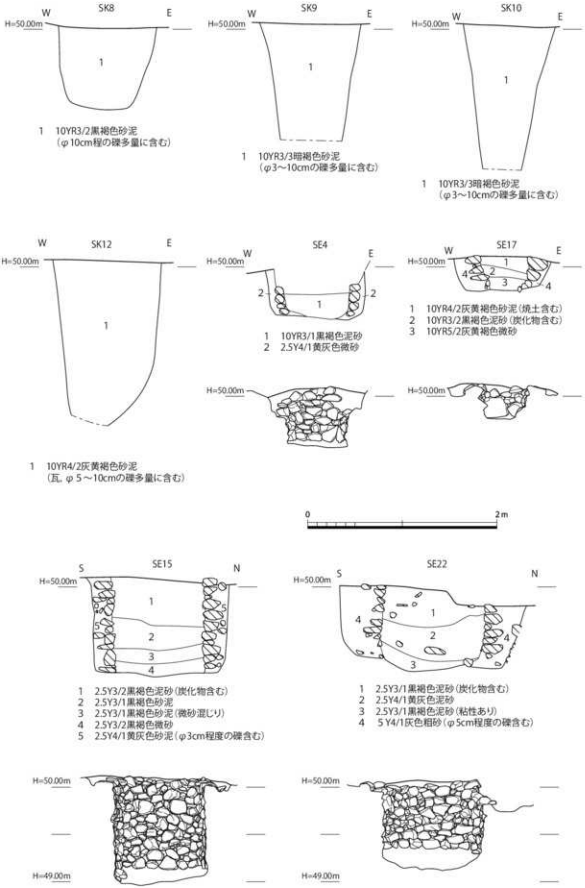


図22　4区遺構断面図・立面図（1：40）

図23　SE４完掘状況（南西から）

図24　SE15完掘状況（南東から）

図25　SE17完掘状況（南東から）

図26　SE22完掘状況（北東から）

ら確実に近代以降と判断できた漆喰の井戸等は含んでいない。遺構として扱った20基の中にも，出土遺物から近代以降の遺構と判断できたものもある。ここでは顕著な遺構を取り上げて報告する。

SK８　調査区北側で検出した東西１m，南北1.7mの土坑で，中央付近で一段深くなる。切り合った２基の土坑の可能性もあるが，検出時点では１基として認識した。南側の一段落ちた部分の断面は台形状を呈し，検出面から底までの深度は0.85mである。埋土には拳大の礫が多量に含まれていた。

SK９　調査区中央南寄りで検出した東西１m，南北１mの円形を呈する土坑である。埋土には多量の礫と遺物が含まれており，掘削中に壁面の崩壊が認められたため，完掘せず，埋め戻し時に重機で断ち割った。検出面から1.2mまでは確認できたものの，底に至らなかった。

SK10　調査区南側で検出した東西0.8m，南北0.9mの円形を呈する土坑である。埋土には多量の礫と遺物が含まれ，掘削中に埋土が崩壊してきたため，完掘せず，重機で断ち割った。検出面から1.5mまで確認したものの，底には至らなかった。

SK12　調査区中央付近で検出した東西1.3m，南北1.5mの楕円形を呈する土坑である。多量の拳大の礫と瓦が含まれていた。埋土が緩く，崩壊の危険性が高かったため，完掘していない。重機で断ち割り，検出面から1.7mの深さまで確認したものの，底部は検出できなかった。

SE４　調査区東端で検出した楕円形の石組み井戸である。石組みの内法で東西0.6m，南北0.7m

で，掘方は東西1.0m，南北1.3mである。石組みは4段確認し，検出面から底部までの深さは0.5mである。上部は幕末の火災処理土坑によって攪乱されている。出土遺物はわずかで，時期は不明である。

SE15　調査区北寄りで検出した隅丸方形を呈した石組み井戸である。石組み内法で東西1.1m，南北0.9mで，掘方は東西1.7m，南北1.5mである。検出面1.0m程度で底部に至り，底部は硬く締まっていた。埋土上層には多量の土師器や陶磁器が含まれており，廃絶前にはゴミ穴として機能した可能性もある。

SE17　調査区西側で検出した石組み遺構で，石組み内径が0.5m，掘方は東西1.2m，南北1.0mである。石組みは3段確認できたが，検出面から底部まで0.35mと浅く，他の石組み井戸と比較すると，湧水深度に達しているとは考えがたい。公家町周辺の調査では，同様の小規模で浅い石組み遺構が検出されているが，その機能は判然としない。水溜などに用いたものか。土師器皿片がわずかに出土したが，時期を明らかにするには至らない。

SE22　調査区北西隅で検出した隅丸方形を呈する石組み井戸である。北半の上部は後世の井戸掘方で攪乱されていた。石組みの内法で東西1.1m，南北0.9mで，掘方はほぼ円形で直径1.7m程度である。検出面から0.9m弱で底に達し，底のレベルはSE15とほぼ同値である。埋土には土師器や陶磁器が多数含まれており，菊花紋の描かれた（いわゆる禁裏御用品）の肥前染付が出土している。

4　遺物（図27～29）

出土遺物の大半は近世陶磁器および瓦である。以下，遺構ごとに出土遺物の概要を述べる。

SE15　1～13は土師器皿で，1～4はⅢN，5～7が見込みに圏線のないⅢSb，8～13が見込みに圏銭を有するⅢSである。5～7，11～13の口縁部には煤が付着しており，灯明皿として用いたとみられる。14は土師器鉢，15は炮烙，16は火鉢であろう。16は内面上半にのみ煤が付着しており，下半は灰で埋めた状態で，灰の上に炭を据えて用いたと考えられる。脚底面には焼成時の膨張・破裂を防ぐための穿孔がある。17～26は肥前磁器である。17は赤絵の小杯，18は青磁染付で見込にコンニャク印判の五弁花を描く。19～21，23～26は染付である。26の裏文様は高台内まで描かれる。22は色絵の椀で，「太釣渭図」として太公望らしき人物が釣りをおこなう姿が描かれ，漢詩が記される。27～30は施釉陶器で，31は焼締陶器である。29は京焼で，外面の一方には柳葉，他方には松葉が上絵で描かれる。染付のコンニャク印判や松竹梅文などから見て，18世紀後半に廃棄された資料群とみる。

SE22　32～38は土師器皿で，32・33はⅢSb，34～38はⅢSである。34・36は口縁部に煤が付着し，35は内面全体に煤が付着している。39～42は肥前磁器の染付である。39は皿で，内面に十六弁菊花紋と桜が丁寧に描かれ，裏文は梅花唐草文である。40は椀で，外面に十六弁菊花紋と梅文が描かれるが，39と比べて菊花紋の花弁の割付が甘く，高台内に「大明年製」の銘がある[9]。41は椀で，外面にアゲハチョウと笹のコンニャク印判，高台内は渦巻状の「福」字，42は鉢で見

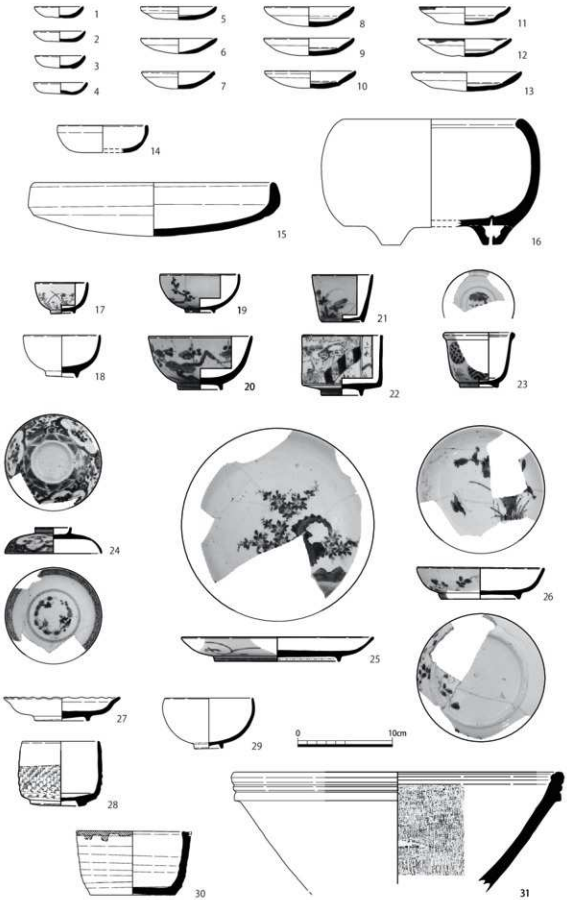


図27　SE15出土遺物実測図（1：4）

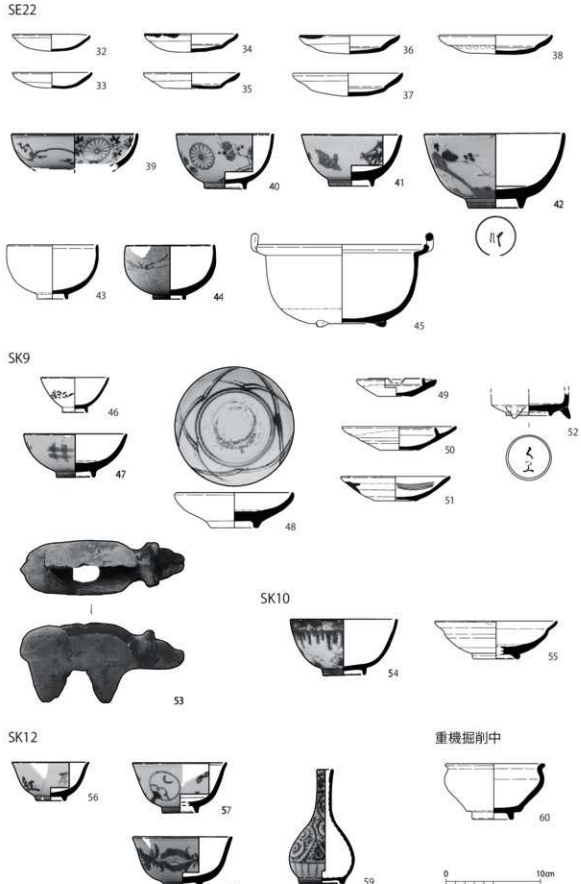


図28　出土遺物実測図（1：4）

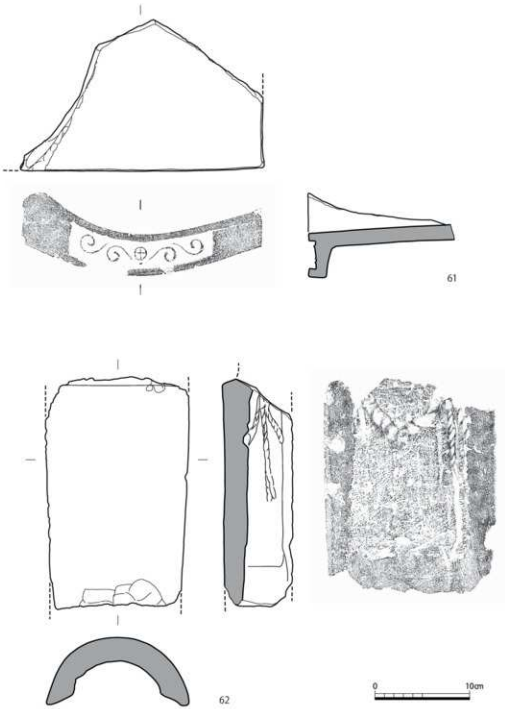


図29　出土瓦実測図（1：4）

込にコンニャク印判の五弁花が捺される，高台内は「三」字状の文字がある。43～45は施釉陶器である。43・44は京焼の椀，45は鉄釉の土鍋で京・信楽系である。他に蛸唐草文の染付椀や京焼風陶器などが出土しており，SE15よりも若干古い18世紀中頃から後半の資料群であるとみる。

SK9　46～48は肥前磁器の染付である。47は見込を輪状に釉剥ぎし，高台には砂が付着する。49～51は施釉陶器の灯明受皿および灯明皿，52は施釉陶器の香炉で，高台内に判読不明の墨書がある。53は土製のウシで，中空，合せ型作りである。他に陶器の甕や染付広東碗などが出土しており，土師器皿はわずかである。被熱したとみられる資料が多く，火災処理に伴う廃棄資料の可能性

がある。江戸時代後期，19世紀代の資料群であろう。

SK10　54は肥前磁器の染付で，型紙刷の雲文に梅の木を手描きする。被熱痕が残る。55は施釉陶器で，見込部分は輪状に釉剥ぎする。出土遺物には瓦が多く，被熱しているものが目立つ。

SK12　57～59は染付である。56も磁器で，赤色の上絵で「御召紅」と書かれる。施釉陶器なども出土しているが，土師器皿は少ない。幕末の資料群であると考えられる。

重機掘削中　60は重機掘削中に出土した，施釉陶器の天目碗である。

瓦　61はSK９出土の軒先瓦である。正面に向かって左側が右側よりも広いことから，桟瓦と考えられる。平面的には斜めに打ち掻いている可能性もあり，使用箇所を考える上で重要な要素である。62は丸瓦である。内面には布目とともに吊り紐痕が看取できる。

5　まとめ

今回の調査で検出した遺構のほとんどは，18世紀以降のものである。元禄の寺町火災に伴い，当地にあった法性寺は鴨東に移転したが，法性寺に関わると見られる遺構は検出できなかった。寛文13年（1673）の火災後，頂妙寺跡地に公家屋敷を造成した際には，公家が墓地跡を屋敷とするのを嫌ったため，幕府が墓地の土を全て入れ替えており[10]，寺院跡地の土地利用の在り方として興味深い。法性寺跡においても移転に伴い，掘削を伴う土地整理をおこなった可能性もあろう。

法性寺移転後の遺構としては，近接した位置で，18世紀からごく近年に至るまでのいくつもの井戸を検出した。それぞれの井戸には時期差があると考えられることから，同じような土地利用，具体的には寺町通を表にして，奥に入った屋敷地裏手としての土地利用が続けられたと推定できる。無論，その契機となった出来事が17世紀末の真如堂や法性寺の移転や，1708年の宝永の大火に伴う公家町の再編および寺町通沿いの寺院移転であることは疑いない。新夷町は今回調査地東側の中筋通を挟んだ両側町であり，西側の寺町通と東側の中筋通に挟まれた一画を全て同一の所有者とするには不自然な町境であるが，近世の絵図上では安禅寺杉之坊が所在しており，調査区内に井戸が集中するという土地利用を勘案すれば，２本の道路の間が安禅寺杉之坊の敷地と見て問題なかろう。安禅寺杉之坊は，江戸時代初期の絵図では「安禅寺御門跡」とされるが，江戸時代中期以降では「杉之坊」としか書かれない絵図も多い。他の門跡寺院が宝永の大火後の公家町再編以後，幕末に至るまで，公家町内の二階町通や梨木通沿いに里坊を有したことを鑑みれば，寺町通の東側に移転した安禅寺杉之坊は朝廷・公家社会との距離がやや大きくなったと考えられる。宝永の大火以前に恐らくは門跡から外れていた安禅寺が，宝永の大火を契機とする公家町再編時に，公家町の外に出るような移転を余儀なくされたと推測する。

出土遺物から見ると，SE22からは菊花紋を描いた肥前磁器，いわゆる禁裏御用品が出土しており，この地に持ち込まれた背景が注目される。同志社大学今出川校地での発掘調査では，烏丸通に面した町屋域からも多量の禁裏御用品が出土しており[11]，必ずしも朝廷・公家社会の構成員だけが用いたものではないことが分かっている。朝廷にゆかりのある安禅寺杉之坊と禁裏御用品の出土を単純に結びつけて考えることはできず，禁裏御用品出土にいかなる背景があるのかは公家町

周辺部での調査事例の増加に期待したい。

今回の調査によって，元禄の火災を契機とする寺院移転の実態と，その後，公家町の外縁部でありながら，公家社会の一角にとどまっていたであろう安禅寺杉之坊の屋敷地として禁門の変・元治の大火を迎えた当地の変遷を明らかにできたものと考える　（新田　和央）

註

1）国際日本文化研究センターの「所蔵地図データベース」により，web上で閲覧。

2）平凡社刊『京都市の地名』日本歴史地名大系第27巻による。

3）註1に同じ。註1の地図と同版と見られ，移転寺院部分を改刻している。

4）登谷伸宏「元禄・宝永期における公家の集住形態と幕府の対応について」『近世の公家社会と京都　集住のかたちと都市社会』，2015年。

5）「京都大学附属図書館所蔵　古地図コレクション」により，web上で閲覧。

6）註1に同じ。

7）松田度・鋤柄俊夫『同志社大学元北志寮地点の調査成果』『同志社大学校内遺跡発掘調査報告書（2004年度）』同志社大学歴史資料館調査研究報告第5集，2005年。

8）小松武彦『公家町遺跡　染殿町の調査』古代文化調査会，2017年。

9）禁裏御用品の集成・分類については以下の研究があげられる。
佐伯公子・永野智子「いわゆる「禁裏御用品」の磁器について」『近世肥前磁器研究の諸問題』第6回近世陶磁研究会資料集，2016年。

10）登谷伸宏「十七世紀後半における公家の集住形態について」『近世の公家社会と京都　集住のかたちと都市社会』，2015年。

11）同志社大学歴史資料館『相国寺旧境内発掘調査報告書　今出川キャンパス整備に伴う発掘調査　第4次～第6次』同志社大学歴史資料館調査研究報告第13集，2015年。

Ⅳ-3　吉田泉殿町遺跡　№97

1　調査経過（図30・31）

本件は，共同住宅建設に伴う試掘調査である。

調査地は，今出川通と鞠小路通の交差点より南に位置する。京都工芸繊維大学セミナーハウスの南隣接地で，東には村上天皇皇后藤原安子（927-964）の火葬墓が存在する。また付近は，西園寺公経（1172～1244）の別荘である「吉田泉殿」に比定されており，鞠小路通沿いにはその旨を示す石碑が設置されている。

今回の試掘調査の実施は，平成４年に行われた京都工芸繊維大学セミナーハウス建設に伴う発掘調査の成果に基づいて指導された[1]。この調査では，北北東一南南西方向に走る室町時代（14世紀）の直線溝が検出されており，これが今回の調査対象地へも連続することが予想されたためである。

試掘調査区は，直線溝に対して直交する方向に２箇所設定した（第１区・第２区）。また試掘調査終了後，施工時の立会調査を２箇所において行った（№１地点・№２地点）。調査の結果，直線溝は今回の調査対象地を貫き，さらに南南西方向へ連続することが示された。また，この溝の下層において，吉田泉殿が造営された平安時代末～鎌倉時代初頭の包含層を確認した。

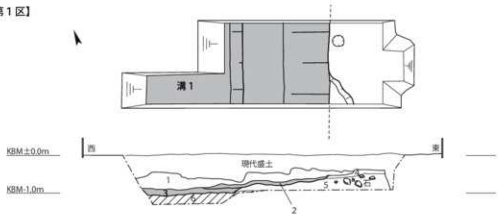
2　層序と遺構（図32）

第１区は対象地の北半部に設定した調査区である。東端より掘削を開始したところ，GL-0.45ｍまで盛土があり，その直下において鈍い黄橙色砂礫を主体とする基盤層を確認した。また，西半部においては，灰黄褐色粘土質シルト

図30　調査位置図（１：5,000）

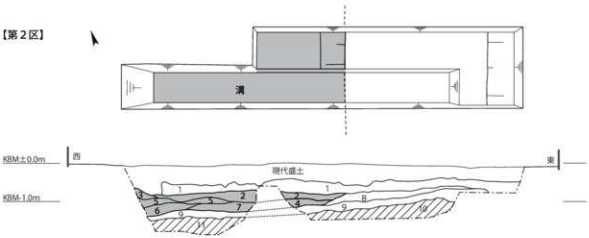
図31　調査区配置図（１：500）

【第１区】



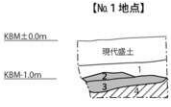
１）10YR5/2　灰黄褐色粗砂混じり粘土質シルト　径10cm程度の礫多量入る　土器片少量入る（中近世包含層）
２）10YR5/2　灰黄褐色粗砂混じり粘土質シルト　上層よりやや粘性強い（溝１理土）
３）10YR7/3　鈍い黄橙色粗砂～砂質シルト　流水痕跡あり（溝１理土）
４）10YR7/3　鈍い黄橙色砂質シルト
５）10YR7/3　鈍い黄橙色礫混じり粘土質シルト　径10cm未満の礫多量入る
６）5Y5/1　　灰色シルトと　5Y8/3　淡黄色細砂の互層（地山・氾濫堆積）

【第２区】



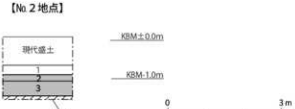
１）2.5Y5/4　黄褐色礫混じり砂質シルト　径10cm未満の礫少量入る（中近世包含層）
２）2.5Y3/1　黒褐色礫混じり砂質シルト　径2cm未満の礫多量入る（溝１理土）
３）5Y4/2　　灰オリーブ色砂質シルトに　5Y6/2　灰オリーブ色粗砂ブロック20%程度入る　しまり悪い（溝１理土）
４）2.5Y4/2　暗灰黄色粗砂混じりシルト　径2cm未満の礫少量入る　土器片入る　ややしまり良い（溝１下層）
５）5Y5/2　　灰オリーブ色微砂－シルト　径cm未満の礫少量入る　土器片入る（溝１下層）
６）5Y4/2　　灰オリーブ色礫混じり粗砂（溝１下層）
７）2.5Y4/2　暗灰黄色微砂混じりシルト　礫多量入る　木片・土器片入る（溝１下層）
８）2.5Y4/1　黄灰色粗砂混じり砂質シルト
９）10YR4/1　暗灰色粗砂混じり砂質シルト　土器片入る（平安時代末～鎌倉時代包含層）
10）10YR3/1　黒褐色砂質シルト　径10cm未満の礫多量入る　鉄分沈着（地山・氾濫堆積）
11）2.5Y3/2　黒褐色砂礫　径５cm未満小礫多量入る（地山・氾濫堆積）

【№１地点】



１）2.5Y5/4　黄褐色砂質シルト　土師器片入る
２）2.5Y7/3　浅黄色細砂（溝１理土）
３）2.5Y6/2　灰黄色粗砂～砂礫　土師器片入る（溝１理土）
４）2.5Y6/3　鈍い黄色粗砂（地山・氾濫堆積）

【№２地点】



１）2.5Y5/4　黄褐色砂質シルト　土師器片入る
２）2.5Y7/3　浅黄色細砂（溝１理土）
３）2.5Y6/2　灰黄色粗砂～砂礫　土師器片入る（溝１理土）
４）2.5Y6/6　明黄褐色砂礫

図32　遺構平面図・断面図（１：100）

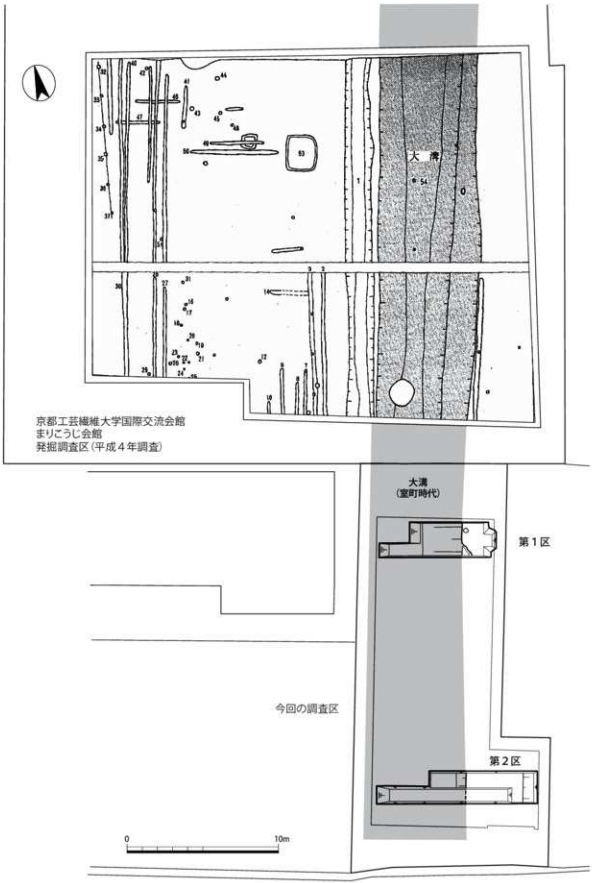


図33　遺構面接合図（１：250）

を主体とする落込みを検出した。これを掘り進めたところ，幅5.7 m以上を測る溝であることを確認した（溝１）。溝壁は溝の心が通る西へ緩やかに傾斜し，段をもって下がる。このため，その断面形状は浅い逆凸形を呈する。最大深度は0.4 mを測る。埋土は上層と下層に大別でき，上層はやや粘性の強いシルト，下層は流水痕跡を伴う粗砂～砂質シルト層から成る。上層から土師器皿の破片が出土したが，時代の特定には至っていない。

溝１の埋土を除去すると，その下層には灰色シルトと淡黄色細砂が互層を成す氾濫堆積を確認した。拳大の礫を多く含むことから，土石流等の自然堆積と解される。これを地山として認識し，第１区の調査を終了した。なお以上の基本層序は，後に実施した立会調査№１，２地点においても同様である。

次に，対象地南半部に設定した第２区の掘削に着手した。第２区では，地表面以下0.5 mの深度において溝１の掘り方を検出した。ただし，その断面形状は第１区とは異なり，不定形な皿形を呈する。また最大深度は0.6 mを測り，より深く開削された状況が看取される。検出幅は5.5 m，溝の西岸は確認できていない。埋土は上下２層に大別でき，上層は黒褐色～暗灰黄色粗砂混じりシルトを主体とする。下層は灰オリーブ色微砂～粗砂混じりシルトを主体とし，木片（自然木）や炭化物のほか，拳大の礫を一定量含む。これらの情報から，下層は強い水流を伴う状況下において，暗色化が顕著な上層は比較的穏やかな環境下で堆積したことが推測される。

地山上面のレベルは第１区に比べて0.2 m程度下がっており，南へ向かって開く地形に沿う。溝１の底面と地山の間には褐灰色粘土質シルトを主体とする平安時代末～鎌倉時代前半の包含層があり，これが一定の層厚をもって南へ広がることを確認した。この層は，立会№２地点では確認できなかったことから，第２区以南にのみ残存するものと推測される。

3　まとめ

以上，吉田泉殿町遺跡の試掘調査成果を報告した。今回の調査では，既往の調査区において確認された室町時代の大溝が，より南方へ連続することを明らかにした。この溝の性格は定かではないが，当該地域における大規模な開発の痕跡を顕著に示している。

加えて今回の調査では，吉田泉殿が営まれた時期に形成された包含層を確認することができた。泉殿は12～13世紀に存続し，14世紀には廃絶したと考察されている[2]。現在，その比定地として百万遍交差点の南西一帯が考察されているが，今回の調査成果は，その南西辺部における泉殿廃絶後の土地利用を如実に示していると言えよう。

（黒須　亜希子）

註

1）京都大学文化財総合研究センター「吉田泉殿の沿革」『京都大学構内遺跡調査研究年報』2009年度，2009年。

2）京都工芸繊維大学吉田団地遺跡調査会編『京都工芸繊維大学構内遺跡発掘調査報告　京都大学西部構内遺跡』京都工芸繊維大学，1993年。

Ⅳ-4　高台寺境内（雲居寺跡）　№15

1　調査の経緯

調査地は，東山区下河原町526に所在し，北政所が豊臣秀吉の菩提を弔うために創建した高台寺の境内にあたる。また，平安時代初頭に桓武天皇の菩提を弔うために菅原真道によって建立された雲居寺跡にも該当している[1]（図34）。

高台寺は，慶長10年（1605）の建立以降，3度の火災によって伽藍の一部を焼失している。高台寺では，かねてより寛政元年（1789）に焼失した小方丈の再建が計画されており，平成17年（2005）には偃月池西側において確認調査を実施している。調査では，小方丈の雨落ち遺構，焼土層と書院跡と目される礎石が確認された[2]（図34）。

今回，小方丈再建計画に伴い，北書院の解体に

図34　調査位置図（1：5,000）

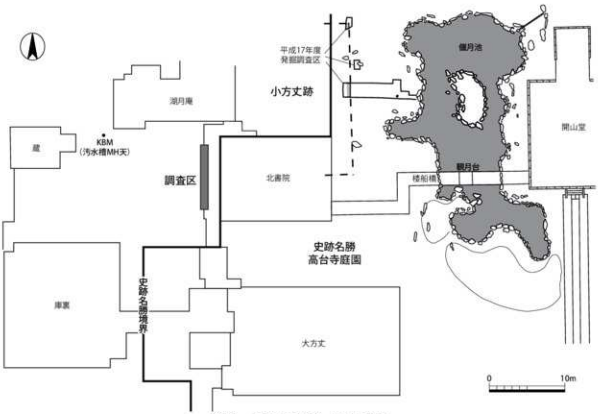


図35　調査区配置図（1：500）

先行して基礎掘削深度の情報を得るために試掘調査を実施した。調査の結果，高台寺に伴う複数の整地層と，平安時代後期の土師器皿を多量に含む造成土を確認した。

調査は平成29年2月16日に実施，面積は9㎡である。

2．遺構と遺物

調査時は事前の協議に沿って，北書院の西に隣接して南北方向に設定した（図35）。

基本層序は，現代盛土以下，KBM（汚水槽MH天）-0.33mで固く締まった黄色砂泥の整地層1，-0.68mで非常に固く締まった明黄褐色砂泥の整地層2と続き，-0.97m以下，平安時代後期の土師器を多量に含む造成土（11・12層）が堆積しており，地山は確認できなかった（図37）。

出土した遺物には，造成土から出土した平安時代後期の土師器皿，瓦のほか，瓦廃棄土坑から出土した被熱痕がある江戸時代後期の瓦がある。

ここでは，口縁部が残る土師器皿（1～7）と軒丸瓦（8・9）を図示する（図38）。1～5・7は皿Nで口縁端部が三角形を呈するものが多い。6はいわゆる「コースター型」の皿である。いずれも京都Ⅴ期中～新段階にあたり，12世紀中頃から後半の年代が与えられている。8は巴文軒丸瓦で，山城産。平安時代後期。摩耗が進み調整は不明である。1・3・5は11層，2・4・6～8は12層出土。9は瓦廃棄土坑から出土した巴文軒丸瓦で，江戸時代後半に属する。

図36　整地層断面（南東から）

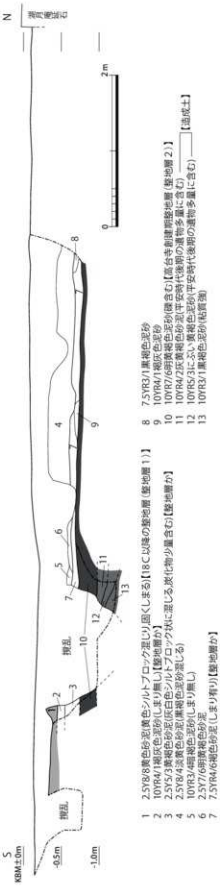


図37　調査区断面図（1：50）

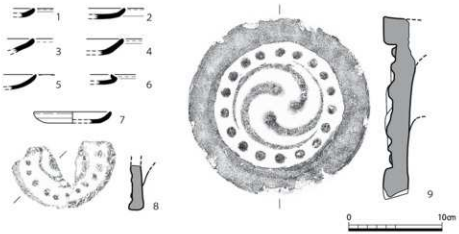


図38　出土遺物実測図及び拓影（1：4）

3．まとめ

断面図には図化できなかったが，被熱を受けた多量の瓦が廃棄された火災処理土坑は，整地層1に覆われていたことを確認している。高台寺では，寛政元年（1789），文久3年（1863），明治18年（1835）の3度火災を受けており，大方丈や小方丈，庫裏などが焼失している。整地層1下層にも整地層と目される複数の層序（2・3・7層）が存在することから，整地層1は，寛政の火災層後の整地層とは考えにくく，幕末から近代以降の整地層と判断できる。したがって，平安時代後期の遺物を含む造成土直上に堆積する整地層2が，高台寺創建期の遺構面と評価できよう。

また，平安時代後期の土師器を多量に含む造成土については，同時期に大規模な堂塔の造営を行った記録が残る雲居寺跡に伴うものとも推定されるが[3]，上面を高台寺創建期の整地層2が覆うことから，高台寺造営に伴い雲居寺関連の遺構を削平した結果である可能性も残されている。なお，平成17年度調査では，鎌倉・室町時代の土器がわずかに含まれる整地層を高台寺創建に際して行われた整地層と想定されている。

以上，今回の調査では，高台寺の創建から現在に至るまでの整地層が良好に遺存すること，雲居寺の存在を出土史料から裏付けることができた成果が挙げられたといえる。　　（西森　正晃）

註

1）『続日本後紀』巻六　承和四年二月二十七日条

「従五位下菅野朝臣永岑言。亡父參議従三位眞道朝臣。奉爲桓武天皇。所建立道場院一區。在山城國愛宕郡八坂郷。雖其疆界接八坂寺。而其形勢猶宜別院。由是。道俗号曰八坂東院。伏望。限以四至。別爲一院。置僧一口。永俾護持。許之。」

雲居寺が承和四年（837）には既に存在し，「八坂東院」と称されていたことがわかる。

2）『史跡名勝高台寺庭園　小方丈整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査終了報告書』㈶京都市埋蔵文化財研究所，2005年

3）『百錬抄』第九　寿永元年十二月十日条

「入道大納言隆季卿雲居寺堂供養。号金山院。」

Ⅳ-5　長岡京左京三条三坊十三町跡　№25

1　調査経過（図39・40）

調査地は，名神高速道路と西羽東師川が交差する地点より南東に位置する。長岡京左京三条三坊十六町跡に相当する区画で，敷地の西辺が東三坊坊間東小路の一部にかかる。今回，この区画に新たに駐車場及び工場建設に伴う造成工事が計画されたため，試掘調査を実施した。

調査区付近では，これまでにも試掘調査，発掘調査が複数行われている。今回の対象地は工場用地の一部で，東には現存の工場建物が存在する。昭和60年4月，現工場の建設に先立ち，今回の対象地を含めた計24,000㎡に対して試掘調査が実施された。その結果，敷地の南半部において長岡京期の遺構面と弥生時代の包含層が良好に遺存することが確認された。これをうけて，建物計画範囲のうち4,330㎡に対して発掘調査が必要であるとの指導がなされ，同年9月に着手された。

図39　調査位置図（1：5,000）

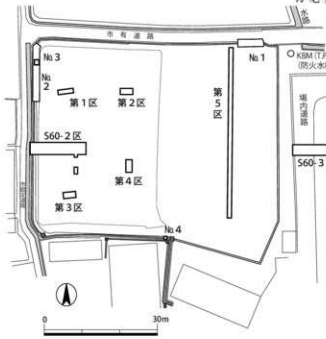


図40　調査区配置図（1：1,000）

調査の結果，長岡京期の遺構面では，南北方向の大通りである左京東三坊大路の両側溝が発見され，当該地域における長岡京の条坊プランが復原された。また，大路の両域において複数の掘立柱建物跡が検出されたことから，邸宅地として利用された町域であることが確認された。さらに，その下層においては弥生時代中期中葉に遡る土坑や流路が検出され，当該時期の集落の存在が明らかとなった[1]。

一方，平成９年度に調査地より北へ400ｍ隔てた名神高速道路桂パーキングエリア設置区域において行われた発掘調査では，古墳時代以前，長岡京期，鎌倉時代の各遺構面が確認されている[2]。この調査では，長岡京の東西通りである二条条間大路や邸宅地が検出され，当該地域の条坊プランが追認された。また弥生時代中期に遡る水田跡と方形周溝墓群で構成される墓域が発見され，長岡京跡の下層に広がる東土川遺跡を特徴付ける成果が得られている。

これら既往の調査成果から，今回の調査においても長岡京期及び弥生時代の遺構が確認される可能性が高いと予測された。

２　層序と遺構（図41）

試掘調査の成果　今回の調査地は，前述のとおり工場の隣接地である。対象範囲のうち，西半部は盛土を施した雑木林，東半部は水田である。この西半部の盛土は現工場建設時の排出土が置かれたものであり，その形成は新しい。念のため，調査区を４箇所に設けたが，GL-1.7ｍ（KBM-0.8ｍ）の掘削深度に至るも現代盛土の掘削に終始し，旧地表面に達することができなかった。

東半部の水田内には，南北方向に全長46ｍを測る調査区を設定した。掘削は北から着手し，部分的に深掘を加えつつ，基本的に長岡京期の遺構面の検出に努めた。

基本層序は，調査区の北半部と南半部とでは大きく異なる。北半部は湿潤で層厚が厚く，GL-1.1ｍ以下においても湿地状堆積が連続する。一方，南半部はGL-0.25ｍ程度で堅緻な地山に達する。長岡京期包含層は，北半部にのみ残存する。南半部に認められないのは，中世以後の削平により消滅したためと解される。

北半部には，GL-0.1ｍまで現代耕作土，-0.2ｍまで灰色粗砂混じりシルト（近現代耕作土），-0.3ｍまで灰オリーブ色粗砂混じり粘土質シルト（中近世包含層），-0.4ｍまで黒色粗砂混じり粘土質シルト（長岡京期包含層），-0.6ｍまでオリーブ黒色粗砂混じり粘土質シルト（ラミナを伴う軟質土壌），-0.8ｍまで灰オリーブ色細砂混じりシルト（軟質土壌），-0.9ｍまで灰色微砂～シルト（植物遺体を含む腐植土層）が堆積し，以下，掘削底である-1.1ｍまで湧水を伴う灰色微砂～シルトが連続する。南半部では，GL-0.1ｍまで現代耕作土，-0.2ｍまで近世耕作土，-0.3ｍまで中世包含層があり，この段階で黄灰色粘土質シルトを主体とする地山に達する。

遺構面（長岡京期包含層除去面）では，調査区北辺において東西方向に通る溝（溝１）とピット２基を検出した。またその下層において，北西－南東方向に通る溝（溝２）と矩形に曲がる溝（溝３）を検出した。溝２・３埋土からの出土遺物は確認できていないが，既往の調査成果から，弥生時代に遡る遺構である可能性が高い。

立会調査の成果　なお今回の工事では，造成に先立ち，敷地周囲の擁壁設置が計画されている。試掘調査により遺構面の深度が把握されたことから，擁壁設置（線掘工事）時に遺構面に抵触することが予想されたため，施工時の立会調査を実施した。確認地点は，計４箇所（図40№１～４）である。このうち，№１地点と№２地点では遺構面の検出を行った。

№１地点の工事掘削は長岡京期包含層内で留まり，遺構面には達していない。包含層上面を精査

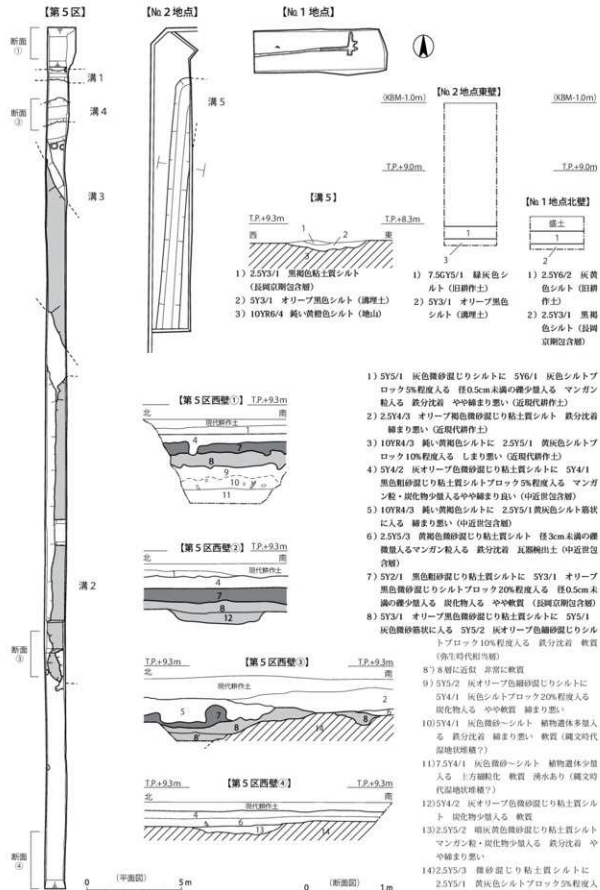


図41　調査区平面断面図（1：200，1：50）

したところ，中世の溝を１条検出した。また，包含層内より長岡京期の須恵器，土師器片を採取した。

№２地点では，地山上面において長岡京期の溝を１条検出した。残存幅は1.0ｍ，最大深度は0.1ｍを測る。北北東―南南西に延びており，主軸は方位北に対して４度東へ振る。北端部では屈曲して東に向かう。埋土からは長岡京期の須恵器片が出土した。

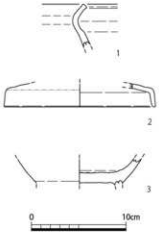


図42　出土遺物実測図（１：４）

３　出土遺物（図42）

今回の調査では，主に長岡京期包含層内より遺物が一定量出土した。内容は，須恵器甕，壷，壷蓋，杯，杯蓋，土師器甕，椀，製塩土器，瓦（須恵質），木製品（燃えさし）である。また，上層（中世包含層）からは，瓦器椀（13世紀）の小片が出土した。

１は，土師器甕の口縁部である。強いナデにより頸部を成形し，口縁端部に端面を作る。体部の調整は摩滅により不明である。２は，須恵器壷（壷E）の蓋である。頂部を欠損するが，屈曲した肩から上位にはオリーブ色の自然釉が付着する。３は高台を損するが，壷（壷L）の底部である。体部外面はナデ，内部底面には指頭圧痕による凹凸が残る。すべて８世紀中葉～９世紀初頭（長岡京期）の製品である。

４　まとめ

今回の調査では，KBM-2.2ｍ（T.P.8.7ｍ）の深度において長岡京期の遺構面が残存することを確認した。特に敷地北半部ではその傾向が顕著であり，出土遺物量から鑑みても，この町域に邸宅が存在したことは確実視される。また，その下層には，弥生時代に遡る遺構群が存在する可能性が示された。これは調査地の北・西に展開する東土川遺跡や鶏冠井清水遺跡との関係が注視される情報であるとともに，当該地域の開発に関する重要な資料として認識されるものである。

以上の成果から，今回の調査対象地については，遺構面の損壊が懸念される開発については事前に発掘調査を行うよう指導した。

（黒須　亜希子）

註

１）財団法人京都市埋蔵文化財研究所　「Ⅴ-34　長岡京左京二条三・四坊」『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』，1988年

２）財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター　『京都府遺跡調査報告書　第28冊　長岡京跡左京二条三・四坊　東土川遺跡』，2000年

表1　遺物概要表

	Aランク点数（箱数）	内訳	Bランク点数（箱数）	Cランク点数（箱数）	出土箱数合計
点数及び箱数	101点（3箱）	土師器47点，須恵器7点，瓦器1点， 灰釉陶器1点，焼締陶器1点， 施釉陶器13点，近世磁器22点，軒丸瓦2点， 軒平瓦2点，丸瓦1点，平瓦2点，土製品1点	1箱	21箱	25箱

Ⅴ　試掘調査一覧表

平成28年度1～3月

平安宮

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
1	内裏跡・聚楽遺跡	上京区下立売通智恵光院西入下丸屋町502	2/10	GL-0.5mで平安時代遺物包含層（整地層か）を確認。	19㎡	16K602
2	大膳職跡・二条城北遺跡	上京区日暮通丸太町上る南伊勢屋町・同区松屋町丸太町上る三丁目・同区丸太町通松屋町東入左馬松町778-2他	1/10	GL-1.0mまで撹乱，GL-1.3mまで暗褐色微砂混じり粘土質シルト（包含層），その直下において黄褐色シルトを主体とする基盤層（地山）を確認。ただし，撹乱が大きく，包含層及び遺構面の残存は一部にとどまる。	10㎡	16K440

平安京左京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
3	四条三坊二町跡	中京区新町通六角下る六角町369他	1/27	2Tr.GL-0.5mで近世建物整地上，-0.92mで江戸時代遺物包含層，-1.16mで中世遺構面（室町時代後期），-1.54mで中世遺構面（室町時代前期），-1.6mで中世遺構面（鎌倉時代～平安時代後期？），-2.0mでオリーブ黒色砂礫（地山）となる。**発掘調査を指導**。	18㎡	16H506
4	六条一坊七町跡	下京区中堂寺壬生川町22,22-1,23,38,42	3/14	GL-0.4m～0.6mで鎌倉時代～室町時代前期の遺構面を確認。六条坊門小路の北側側溝推定ラインでは，幅4m以上を測る大溝を確認。また敷地北東部では，南北溝を確認。**発掘調査を指導**。	88㎡	16H541
5	六条二坊二町跡	下京区南門前町467他	1/11	地表面以下0.25m付近において江戸時代以前の遺構面と室町時代，江戸時代の遺構を確認。大宮大路付近には南北方向の大溝があり，これが既往の調査において報告された構えの濠に連続する可能性がある。**発掘調査を指導**。	34㎡	16H441
6	八条二坊十町跡	下京区東堀川通木津屋橋下る御方殿屋町1	2/13～2/15	グラウンド及び近世盛土以下，GL-0.9mで中世遺物包含層，-1.7mで河川堆積（堀川か？）となる。**発掘調査を指導**。	47㎡	16H651
7	九条四坊十二町・烏丸町遺跡・九条河原城跡	南区東九条河西町4，5,21-2	2/9	GL-0.9～1.05mで黄褐色砂礫の河川堆積土を確認。遺構・遺物なし。	15㎡	16H608

平安京右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
8	三条四坊十五町・十六町跡	右京区太秦安井一町田町14	3/8	GL-1.8mで黄褐色粘質土の地山を確認。遺構・遺物は確認できず。	31㎡	16H243
9	三条四坊十六町跡	右京区太秦安井西沢町14-5,14-23	2/1	GL-1.0mで明黄褐色泥土の地山を確認。	21㎡	16H444
10	五条二坊八町跡・壬生遺跡	中京区壬生西土居ノ内町24-3他	1/23	GL-0.6～1.0mで黄褐色砂礫まじり粘質土や灰色砂礫の地山上面で湿地状堆積を確認。	43㎡	16H512
11	七条一坊十二町跡	下京区朱雀分木町80他	2/27～3/2	1区において，GL-0.44mで暗オリーブ褐色シルトの整地層，-0.5mで黄褐色シルトの地山。整地層上面で推定北小路北側溝を確認。**取扱い協議中**。	46㎡	15H394
12	八条三坊二町・七町跡・衣田町遺跡	下京区七条御所ノ内西町14	3/10	GL-2.80mで黄灰色砂の地山。遺構・遺物は確認できず。	6㎡	16H465

13	九条四坊六町跡	南区吉祥院中河原里北町3,4,5,7の一部，8の一部	2/7	敷地東側でGL-1.0mで黄褐色シルトの比較的安定した面を確認。敷地西側では河川の氾濫堆積を確認。	72㎡	16H524

太秦地区

番号	遺跡名	住　所	調査日	調査概要	面積	受付番号
14	広沢古墳群	右京区嵯峨広沢池下町32-3の一部，32-4の一部	2/23	現耕作土や床土の下，GL-0.2～0.5mで黒褐色粘質土，-0.75～1.0mで淡黄色粘質土や緑灰色砂礫の地山。遺構・遺物は確認できず。	30㎡	16S640

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
15	高台寺境内（雲居寺跡）	東山区下河原通八坂鳥居前下る下河原町526	2/16	現代盛土以下，GL-0.16mで近代？整地層，-0.78mで高台寺創建期の整地層，以下，平安時代後期の遺物を多量に含む造成土。**取扱い協議中。本文8ページ。**	9㎡	16S510
16	法住寺殿跡	東山区今熊野池田町12	3/6	GL-0.7mで黄褐色～灰黄色の粘質土を確認。遺構・遺物なし。	30㎡	16S644
17	中臣遺跡	山科区西野山中臣町41-1,46,50・同区中鳥井町126	1/17・1820	対象地南東部では，GL-0.8～0.9mの地山直上及び平安時代の整地層上面で，溝や土坑を確認。また対象地西半では，現代盛土の下，近世を含む湿地状堆積を確認。	165㎡	16N458

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	試掘日	調査概略	面積	受付番号
18	安楽行院跡	伏見区深草坊町51-1	3/22	GL-0.5～0.9mの地山上面で鎌倉時代の遺構を確認。**発掘調査を指導。京都市内遺跡発掘調査報告平成29年度を参照。**	52㎡	16S713
19	伏見城跡	伏見区深草大亀谷万帖敷町369-2	2/8	GL-0.9mで時期不明の造成土を確認。	19㎡	16F532

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	試掘日	調査概要	面積	受付番号
20	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	竹田田中殿町91-2	2/6	GL-1.6mで灰色粘質シルトの湿地状堆積，-2.1mで黄褐色粘質土の古墳時代遺物包含層を確認。**取扱い協議中。**	27㎡	16T513
21	鳥羽離宮跡	伏見区中島前山町134の一部	1/12	GL-1.1mで陸部および汀を確認。遺物・遺構は確認できず。	24㎡	16T470

長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
22	長岡京左京一条四坊三町跡	南区久世東土川町272-1，272-2	2/2	GL-2.3mで弥生土器を含む緑灰色細砂層，-2.5mで灰色砂礫層を確認。	71㎡	16NG520
23	長岡京左京一条四坊十一町跡	伏見区久我本町11-257の一部	3/24	現代盛土以下，GL-1.25mで黄褐色粘質土の地山。遺構は地山上面で中世耕作溝，柱穴（一辺0.5～0.6mの長方形），土坑，竪穴住居の可能性のある遺構を確認。**設計変更を指導。地中保存される。**	37㎡	16NG649

24	長岡京左京一条四坊十一町跡	伏見区久我本町11-257の一部，11-260，11-23	3/23	現代盛土以下，GL-1.25mで黄褐色粘質土の地山。遺構は地山上面で中世耕作溝，長岡京期の整地土，一条条間南小路北側溝，古墳時代の溝を確認。**設計変更を指導。地中保存される。**	45㎡	16NG650
25	長岡京左京三条三坊十六町跡	伏見区久我西出町4-10	3/16	GL-0.3m以下において，長岡京期包含層及び遺構面，-0.6mの深度において古墳時代以前と推定される遺構面と方形周溝墓の可能性がある溝を２条確認。**発掘調査を指導。本文36ページ。**	72㎡	16NG585
26	長岡京左京七条四坊十五町跡・東京極大路跡	伏見区横大路　地先	2/20・21	1Tr.で河川氾濫堆積のみを確認。2Tr.ではGL-2.25mで黄褐色粘質土のベース，3・4Tr.では-2.4mでにぶい黄橙色粘質土に至る。各Tr.とも，遺構・遺物は確認できず。	119㎡	16NG360
27	長岡京左京九条三坊十三町跡・淀城跡	伏見区淀池上町128他	1/13	東半部で淀城期の遺構面を確認。盛土の下に近世包含層の薄層があり，地表面以下1.5m付近において淀城期の遺構面にいたる。土坑１基，ピット２基を確認。**発掘調査を指導。**	11㎡	16NG387
28	長岡京左京九条四坊一町・二町跡	伏見区納所星柳他地内	1/30	GL-0.6mで昭和期と考えられる旧護岸を確認。	17㎡	16NG518

南桂川地区

番号	遺跡名	所在地	試掘日	調査概略	面積	受付番号
29	史跡・名勝嵐山	西京区嵐山中尾下町2	2/17	GL-0.8mで近世以降の遺構を確認。**地中保存される。**	16㎡	28N072
30	桂城跡	西京区桂久方町64,64-5,65	3/29	GL-0.6～0.7mで近世遺物を含むにぶい黄褐色粘質土，-0.8～0.9mで僅かに遺物片を含む灰黄褐色粘質土，-0.7～1.0mで灰オリーブ色粘質シルト，-1.4～1.1mで灰オリーブ色砂礫の地山。遺構は確認できず。	8㎡	16S673
31	上久世遺跡	南区久世上久世町80	1/25	GL-0.3mで河川堆積を確認。	26㎡	16S618

京北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概略	面積	受付番号
32	周山古墳群	右京区京北周山町中山39-4他（市立周山中学校）	3/27	表土及び土壌化層の下，GL-0.3～0.5mで明赤褐色や浅黄橙色の岩盤（地山）を確認した。遺構・遺物は確認できず。	13㎡	16S689

平成29年度4～12月

平安宮

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
33	兵庫寮跡	上京区一条通七本松西入東町43-1，43-4	9/27	GL-1.0mで褐色泥砂地山を確認。兵庫寮跡に関連する遺構・遺物は確認できず。	23㎡	17K404
34	大蔵省跡	上京区仁和寺街道七本松東入一番町102	5/15	GL-0.64～1.29mで淺黄色砂礫～粗砂，明褐色シルト～泥砂の地山を確認。	17㎡	17K036
35	縫殿寮跡	上京区下長者町通土屋西入る二本松町17	9/29	GL-0.95mで明黄褐色泥土，-2.45mで褐色泥砂の堀状の堆積を確認。遺構は確認できず。	12㎡	17K268
36	左近衛府跡・聚楽第跡	上京区出水通松屋町西入西天秤町156	12/22	GL-1.35mで地山を確認。近世時の削平と土取り穴により，遺構・遺物は確認できず。	37㎡	17K575
37	采女町跡	上京区出水通千本東入尼ヶ崎横町350-3	10/6	GL-0.97mでにぶい黄褐色粘質シルトの地山を確認。大部分は土取り穴による撹乱を受ける。	27㎡	17K299
38	中和院跡・聚楽遺跡	上京区下立売千本西入る稲葉町456,458	5/25	GL-1.5mで地山を確認。大半が近世の削平を受け，一部にのみ遺構が残存。	27㎡	17K096
39	朝堂院永寧堂跡・聚楽遺跡	中京区聚楽廻東町22-3，-5，20-7，24-18，24-19	5/8	GL-0.8～0.9mで黒褐色粘質シルト，-0.8～1.0mでにぶい黄褐色小礫～シルト，-1.5mでにぶい黄橙色粘質土の地山。黒褐色粘質シルト上面で平安時代の遺物を含む近世の土坑を２基確認。永寧堂に関連する遺構・遺物は確認できず。	22㎡	16K681

平安京左京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
40	北辺二坊三町跡	上京区皇英町287	11/24	GL-0.３mで地山を確認。但し大部分が解体撹乱により大きく損なわれている。	60㎡	17H347
41	北辺三坊七・八町跡・一条三坊十六町跡・公家町遺跡・内膳町遺跡	上京区京都御苑3	7/7・10/16・17・11/1・2・7・10	GL-0.29mで幕末の遺構面を確認。	153㎡	16H474
42	一条四坊十町跡，公家町遺跡	上京区京都御苑2の一部	11/16	GL-0.2m以下，公家町遺跡に関する遺構面を複数確認。**発掘調査を指導**。	7㎡	17H330
43	二条四坊二町跡・烏丸丸太町遺跡	中京区間之町通竹屋町上る大津町663	4/4・5	調査区も平安時代の遺物は数点確認できるが遺構に伴わず，近世・近代以降の撹拌が著しい。ただし調査区東側で平安時代の遺構を確認。**発掘調査を指導**。	176㎡	16H648
44	三条一坊十五町跡・史跡神泉苑	中京区御池通神泉苑町東入門前町167	7/3	GL-0.1mで江戸時代整地層。上下に分かれる中島遺構土を確認。	2㎡	29N013
45	三条二坊十一町跡	中京区油小路通御池下る式阿弥町128	10/5	GL-1.12mで灰黄色シルトの地山を確認。中世以前の遺構面は近世以降に削平。	36㎡	17H302
46	三条三坊四町跡・烏丸御池遺跡	中京区町頭町101-1，101-2，105	7/10・12	GL-0.86m以下で中世後期の遺構面，-1.83mで中世前期遺構面，-1.99mで平安時代後期遺構面，-2.25mで平安時代中期以前および古墳時代以前の遺構面を計５面確認。ただし，遺構面は西側でより深くなり，GL-3.2mまで及ぶ。**発掘調査を指導**。	38㎡	17H026
47	三条三坊十二町跡・烏丸御池遺跡	中京区両替町通姉小路下る柿本町406，408，402，410-2	6/26・27	GL-0.8mで土坑や溝を確認。**発掘調査を指導**。	40㎡	17H045
48	三条四坊九町跡	中京区柳馬場通二条下る等持寺町15他	4/26・27	GL-1.16mで中世遺構面，-1.34mで中世～平安時代後半の遺構面，-1.66mで地山。**発掘調査を指導**。	39㎡	17H056

49	四条二坊十四町跡	中京区古西町452,同区空也町498	9/8	GL-0.5mで近世の遺構面，-1.2mで室町面の遺構面を確認。	27㎡	17H233
50	四条四坊三町跡	中京区東洞院通蛸薬師下る元竹田町643，645，646，646-1	11/30・12/1	GL-1.05mで中世後半の遺構面，-1.8mで地山を確認。その間には2もしくは3面の遺構を確認。**発掘調査を指導**。	50㎡	17H345
51	五条一坊四町跡（朱雀大路跡）	中京区壬生辻町50-1，50-9，50-10	4/21	GL-0.85m以下で粘質土層，粗砂層，砂礫層などを確認。遺構・遺物は確認できず。	18㎡	16H674
52	五条二坊九町跡・本禅寺の構え跡	下京区堀川通四条下る四条堀川町272-6・272-5他7筆	8/1	盛土，近世包含層以下，GL-1.65～1.85mで地山を確認。**取扱い協議中**。	14㎡	17H147
53	五条二坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡	下京区西洞院通四条下る妙伝寺町713-1他5筆	12/4	GL-0.6mで明黄褐色細砂（包含層），-0.75mで黄褐色細砂の地山に至る。顕著な遺構・遺物は確認できず。	17㎡	17H459
54	五条四坊十一町跡	下京区魚屋町通仏光寺下る鍋屋町241-1他	9/15	調査地の西半部において中世遺構面と平安時代末期～鎌倉時代遺構面の残存を確認。**本文3ページ**。	50㎡	17H187
55	五条四坊十二町跡	下京区富小路通高辻下る惠美須屋町186	9/20	部分的にGL-1.55～2mで平安時代の整地層（中期・後期）を確認。	44㎡	17H188
56	六条二坊十二町跡	下京区油小路通六条上る卜味金仏町181，184-1，186	12/11・13	GL-1.1mで中世の遺構面を2面確認。**発掘調査を指導**。	57㎡	17H442
57	六条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡	下京区烏丸通松原下る五条烏丸町396，398，401	4/11	GL-3.0mで黄褐色砂礫の地山を確認。	29㎡	16H507
58	六条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡	下京区烏丸通松原下る五条烏丸町409地先	9/21	GL-1.9mでウダイス色の整地層の可能性がある土層，-2.15mで地山を確認。	35㎡	17H240
59	六条四坊十三町・十四町跡・御土居跡・寺町旧域	下京区五条通寺町西入御影堂町14他	11/6	遺物・遺構は確認できず。	55㎡	17H308
60	八条四坊七町・十四町・十五町跡	下京区川端町，下之町，東之町，西之町，上之町	10/25・26・30・31	塩小路高倉交差点北東でGL-1.1m以下，元崇仁小学校敷地内北側で-1.1～2.0m以下，敷地グラウンド北-0.8～1.1m以下，グラウンド南-1.5m以下いずれの地点でも，近世の河川堆積を確認。	84㎡	17H239
61	九条三坊八町跡・烏丸町遺跡	南区東九条室町46-2，56	4/18・19	GL-0.75m以下で中世以前の遺構面を４面確認。**発掘調査を指導**。	79㎡	16H654
62	九条三坊九町跡・烏丸町遺跡	南区東九条上殿田町42他	5/1・22	GL-0.28m以下で鎌倉時代以前の４面の遺構面を確認。**発掘調査を指導**。	69㎡	16H697
63	九条四坊一町跡・烏丸町遺跡	南区東九条東山王町14-1	9/4	GL-1.1mで鎌倉時代の遺構面を確認。	68㎡	17H120

平安京右京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
64	北辺二坊六町跡・御土居跡	北区大将軍川端町61，62，63，64，66，69，70，71-2	5/12	GL-1.1～1.6mで明黄褐色細砂やにぶい黄褐色砂礫の河川の氾濫堆積を確認。	21㎡	17H034
65	一条二坊六町跡	上京区下立売通御前西入突抜町428，428-1	6/23	GL-1.3m～1.7mまで近世後期包含層が堆積，その直下において黄褐色粘土質シルトを主体とする地山を確認。また，近世前期包含層と中世包含層の残存を部分的に確認。	34㎡	17H082
66	四条一坊二町跡	中京区壬生天池町1-8	6/12	GL-1.18mでオリーブ黒色粗砂，-1.2mでオリーブ黒色，-1.36mで灰色微砂混じりの粘土となる。	27㎡	17H097
67	四条二坊一町跡	中京区壬生上大竹町14-1，3，4	9/19	GL-0.55mで平安時代前期を中心とする時期の遺構群を確認。**発掘調査を指導**。	43㎡	17H367
68	四条四坊十町跡	右京区山ノ内西裏町9-3，9-7，10-1，23	10/18	GL-0.75mでにぶい黄色粘質土の地山および自然流路を確認。	31㎡	17H315

69	七条二坊八町跡	下京区西七条前田町39-1・同区御前田町52-1	10/24	GL-1.7mで平安時代の遺物を含む湿地状堆積，-1.9mで地山の黄灰色砂礫を確認。	26㎡	17H244
70	七条三坊十町跡	右京区西京極南庄境町1	4/24・25	1Tr.はGL-0.92m～1.44mまで旧耕土，床土，～1.94mまで河川堆積，-2.1mまで湿地を確認。	24㎡	16H663
71	九条一坊九町跡・西寺跡・唐橋遺跡	南区唐橋門脇町21，22-1	4/6	GL-0.15～0.3mで浅黄～褐灰色粘質土の地山。部分的に地山上面に整地土と考えられる暗褐色粘質土を確認。平安時代末の溝や土坑，柱穴，弥生時代の溝（方形周溝墓）を地山もしくは，整地土上面で確認。**発掘調査を指導。**	92㎡	16H630

太秦地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
72	史跡及び名勝　嵐山	右京区嵯峨鳥居本化野町17	10/4	GL-0.2mで地山を確認。	20㎡	29N031
73	史跡及び名勝　嵐山	右京区嵯峨鳥居本化野町12-39	6/27	GL-1.1mで地山を確認。地山直上で近世墓を確認。	26㎡	29N008
74	史跡及び名勝嵐山	右京区嵯峨鳥居本小坂町22-9，23-1・同区嵯峨鳥居本化野町12-93	7/18	GL-1.0mで地山を確認。顕著な遺構，遺物なし。	24㎡	29N012
75	嵯峨遺跡	右京区嵯峨大覚寺門前八軒町29-1の一部	8/21	盛土，近世の河川氾濫堆積以下，GL-1.5～1.65mで黄灰色シルトの地山に至る。遺構・遺物なし。	20㎡	17S255
76	嵯峨遺跡	右京区嵯峨大覚寺門前八軒町27-1一部他2筆	8/21	盛土，近世の河川氾濫堆以下，GL-1.7mで黄灰色シルトの地山に至る。遺構・遺物なし。	12㎡	17S256
77	嵯峨遺跡	右京区嵯峨大覚寺門前八軒町27-3	4/12	GL-1.1mで褐色粘質シルトの地山。地山上面で土坑・ピットを確認。	17㎡	16S670
78	嵯峨遺跡	右京区嵯峨釈迦堂門前瀬戸川町7-1，8-3	4/10	GL-0.65mで黄褐色シルト～砂礫の地山を確認。	27㎡	16S660
79	嵯峨遺跡	右京区嵯峨小倉山堂ノ前町6-16，7-1，7-3	7/3～6	GL-0.25mで近世～近代整地層，-0.35mで黒色泥砂層，-0.5mで地山。	93㎡	16S719
80	嵯峨遺跡・檀林寺跡	右京区嵯峨天龍寺立石町5-10他	7/18・19	GL-0.7mで土坑・溝を確認。**設計変更を指導。**	139㎡	17S029
81	史跡および名勝嵐山	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町45-15他3筆	10/11	GL-0.4～0.8mで包含層であるオリーブ褐色泥砂（4層）を確認。遺構面は良好に存在しているものの，遺構は確認できず。	20㎡	29N039
82	史跡及び名勝　嵐山	右京区嵯峨天龍寺造路町30-56	9/26	GL-0.3mまで現代盛土であることを確認。	9㎡	29N030
83	宝幡寺境内・嵯峨遺跡・嵯峨北堀町遺跡	右京区嵯峨北堀町31-1	5/24	GL-1.5mの深度において地山（中世遺構面）を確認したが，明確な遺構は確認できず。	42㎡	17S100
84	嵯峨折戸町遺跡	右京区嵯峨天龍寺油掛町10-24	6/5	GL-1.02mでオリーブ黄色シルトの地山を確認。	72㎡	16S666
85	仁和寺院家跡	右京区宇多野御池町6-2，6-3	5/26・9/11・13・14	GL-0.3～0.4mの深度において土坑，ピット，溝を有する室町時代遺構面を確認。**本文13ページ。**	48㎡	17S017
86	太秦馬塚町遺跡	右京区太秦北路町14-1,14-2,13-1,15-2	5/23	GL-0.5mで地山（中世相当面）を確認したが，明確な遺構は確認できず。	66㎡	17S073
87	太秦馬塚町遺跡	右京区太秦馬塚町21-1，21-2の一部	12/8	GL-0.6～0.85mで明黄褐色泥砂の地山にいたる。遺構・遺物は確認できず。	32㎡	17S524

洛北地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
88	大雲寺跡	左京区岩倉西河原町38	10/10	GL-0.25mで河川堆積と考えられる灰褐色砂礫を確認。遺構・遺物なし。	16㎡	17S222
89	植物園北遺跡	北区上賀茂豊田町37	10/13	GL-0.6mで河川堆積と思われるオリーブ黒色粘質土，-1.1mで暗灰黄色砂礫の地山。遺構・遺物なし。	20㎡	17S453
90	植物園北遺跡	北区上賀茂薮田町9，10	6/9	GL-0.5mでにぶい黄褐色シルトの地山を確認。	32㎡	17S028
91	植物園北遺跡	北区上賀茂岩垣内町34，35，38	5/16	GL-1.41mで時期不明堆積層，-1.5mで明黄褐色泥砂の地山。	21㎡	16S641
92	植物園北遺跡	左京区松ヶ崎芝本町20-1	11/9	GL-0.38mで浅黄色シルトを確認。遺構・遺物なし。	14㎡	17S317
93	雲林院跡	北区紫野雲林院町38	9/28	GL-0.5mで中世の包含層，-0.7mで褐色シルトの地山で中世の遺構面を確認。**発掘調査を指導**。	25㎡	17S118
94	雲林院跡	上京区大宮通今宮御旅所西入若宮横町134他	4/28	現代盛土以下，GL-0.46mでにぶい黄褐色泥砂，-0.8mで地業，-1.68mで地山となる。**発掘調査指導**。	26㎡	17S010

北白川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
95	北白川廃寺・上終町遺跡	左京区北白川堂ノ前町39-5	7/31	GL-0.2mで黄色粗砂，-0.7mで灰オリーブシルト，-0.87mで黒色細砂混じりシルト，-1.16mで淡黄色細砂の堆積を-1.37mまで確認。遺構や遺物は確認できず。	24㎡	17S124
96	寺町旧域	上京区中筋通石薬師下る新夷町390-2他	6/22・8/29～9/7	GL-1.2mで，近世遺構面を確認。**本文18ページ**。	156㎡	17 S 027
97	吉田泉殿町遺跡	京都市左京区吉田泉殿町34	8/31・9/1	南北方向に通る室町時代の大溝を確認。**本文29ページ**。	33㎡	17S241
98	白河街区跡	左京区聖護院中町8-4他6筆	12/5	GL-1.1mで中世遺物を含む暗灰黄色粘質土，-1.5mで明黄褐色細砂混じり黄褐色粘質土，-1.8mで浅黄色細砂の地山に至る。地山上面で，平安時代末から鎌倉時代の柱穴や南北方向溝などを確認。**発掘調査を指導（平成29年度国庫補助）**。	60㎡	17S349
99	白河街区跡	左京区聖護院山王町5	4/17	GL-0.90mで暗灰黄色泥砂の平安末～中世前期遺物包含層を確認。**発掘調査を指導**。	71㎡	17S013
100	白河南殿跡	左京区二条通川端より八筋目東入上る石原町283-8	11/27	GL-1.5m以下は氾濫堆積。顕著な遺構等はなし。	25㎡	17R365
101	白河街区跡	左京区南禅寺草川町43	7/26・27	GL-2.10mで前近代耕土層，-2.65mで湿地状堆積，-3.40mで氾濫堆積。	119㎡	16S712

洛東地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
102	法住寺殿跡	東山区東大路通七条下る東瓦町964	12/18・19	GL-1.0mまで近現代造成土，-1.7mまで微砂～シルトの混合層（造成土・時期不明），-1.9mで暗灰色粘土質シルト（中世前期耕作土），以下，掘削底である-2.0mまで灰色砂礫（地山）を確認。	55㎡	17S574
103	山科本願寺跡（寺内町遺跡）	山科区西野今屋敷町9-6	8/16・17	GL-1.2mで灰黄褐色粗砂（洪水堆積），-1.3mでオリーブ褐色粘土質シルト（地山）。	49㎡	17S193

104	法性寺跡	東山区本町二十丁目441-1他	5/9・10	GL-0.6～0.7mでにぶい黄色粘質シルトの地山。地山上面で室町時代から近世の土坑や柱穴，溝などを多数確認。**発掘調査を指導**。	95㎡	17S024
105	正覚寺跡	伏見区深草正覚町7-3	11/13・14	GL-1.7mで遺構面を確認。溝や柱穴などを確認。**取扱い協議中**。	95㎡	17S328
106	中臣遺跡	山科区東野舞台町47-1，48，49-1，50-1，51-1	6/20・11/20・29・12/6・7	GL-0.2～0.8mの深度において，竪穴建物，大溝，土坑，ピット等を伴う古墳時代後期の遺構面を確認。遺構の残存状態は良好であり，埋土には多数の遺物を含む。**設計変更**。**取扱い協議中**。	163㎡	17N022
107	中臣遺跡	山科区勧修寺東金ケ崎町30	9/22	GL-0.6mで地山を確認。地山上面で溝やピット，竪穴建物を確認。**取扱い協議中**。	36㎡	17N387
108	勧修寺境内	山科区勧修寺西北出町57，58，59	5/29	GL-1.4～1.6mで褐灰色泥土を確認。	16㎡	17S111

伏見・醍醐地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
109	史跡　醍醐寺境内	伏見区醍醐東大路町6	6/8	GL-0.65～0.9mで黄褐色砂礫の地山。顕著な遺構・遺物なし。	30㎡	29N003
110	伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏見区桃山町永井久太郎69-1	7/14	GL-0.25m以下で伏見城にともなう造成土，-1.88mで明黄褐色泥砂の地山を確認。遺構は確認できず。	23㎡	17F067
111	伏見城跡	伏見区桃山町大蔵38	7/12～14・8/18	GL-0.5～0.6mで盛土，-1.0mで伏見城期の造成土，-1.1mで地山となる。**取扱い協議中**。	246㎡	17F011
112	伏見城跡・桃山古墳群（永井久太郎古墳）	伏見区桃山町島津60-1の一部	6/28	造成土をGL-0.45～1.5mで確認。その直下-1.7mで地山を確認。	16㎡	17F014
113	伏見城跡	伏見区桃山町島津60-6	12/12	GL-0.25mで伏見城に伴う造成土を確認。遺構は確認できず。	12㎡	17F390
114	伏見城跡	伏見区桃山町下野27-1，27-10の一部	8/8～10	敷地中央で石垣裏込めを，敷地西端で石列を確認。**発掘調査を指導**。	136㎡	16F684

鳥羽地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
115	鳥羽離宮跡	伏見区竹田西桶ノ井町40	12/20	GL-1.2m～2.0mまで炭化物を含む粘土質シルトがあり，その下に旧鴨川の氾濫原（湧水層）を確認。顕著な遺構，遺物はなし。	8㎡	17T469
116	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区竹田東小屋ノ内町89，94	8/3	近世以降の堆積層の下，GL-1.2以下は遺物を含まない河川堆積がつづく。	59㎡	17T052
117	鳥羽離宮跡・鳥羽遺跡	伏見区竹田東小屋ノ内町84-1	9/7	盛土以下，GL-0.3m以下の遺物を含まない湿地堆積層を確認。遺構は確認できず。	43㎡	17T218
118						17T224
119	鳥羽離宮跡	伏見区竹田浄菩提院町315，316	11/8	GL-0.9mで時期不明の遺構面を確認。ただし，顕著な遺構・遺物は確認できず。	14㎡	17T313
120	鳥羽離宮跡	伏見区中島中道町87他	12/14	GL-1.5mで湿地堆積層を確認，-1.6mで古墳時代の包含層を確認。**取扱い協議中**。	47㎡	17T397
121	下鳥羽遺跡	伏見区下鳥羽東芹川町5他28筆	9/25	河川堆積に由来する堆積層と時期不明の溝の肩を確認したが，その他に顕著な遺構は確認できず。	47㎡	17S234
122	久我東町遺跡	伏見区羽束師鴨川町182-1	7/21	GL-1.6mので，鎌倉～室町時代の遺構面を確認。水田跡を確認。	39㎡	17S041
123	淀城跡	伏見区淀木津町612-3・18・20～23・25・26・30	5/17・18	GL-3.69mまで盛土。	23㎡	16S752

124	淀城跡	伏見区淀新町134-2	8/28・29	淀城城下に存在したとされる池と弁天島の痕跡を確認したが，解体撹乱により大きく損なわれる。	135㎡	17S152

長岡京地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
125	東院跡・長岡京左京北辺三坊三町・六町跡	南区久世殿城町332	6/19	GL-1.5mで褐色シルトの地山を確認.	22㎡	17NG175
126	左京二条四坊三・四町跡・東土川遺跡	伏見区久我西出町2-15，2-16，2-168，2-143	8/24	GL-0.99mで地山を確認。顕著な遺構・遺物は確認できず。	70㎡	17NG178
127	長岡京跡・與杼神社旧境内	伏見区淀水垂町他	10/19・20	GL-1.1mで與杼神社旧境内に関連する石列を確認。**発掘調査を指導。**	116㎡	17NG338
128	長岡京跡・與杼神社旧境内・淀水垂下津遺跡	伏見区淀水垂町他	11/21	近現代の洪水堆積を確認したが，顕著な遺構は確認できず。	93㎡	17NG522
129	長岡京跡・淀城跡	伏見区淀本町225	11/28	GL-1.0mで石垣と考えられる石材を確認。**発掘調査を指導。**	76㎡	17NG294

南桂川地区

番号	遺跡名	所在地	調査日	調査概要	面積	受付番号
130	史跡及び名勝　嵐山・嵐山谷ヶ辻子町遺跡	西京区嵐山風呂ノ橋町2-4，2-112，2-113	8/23	GL-1.02mで室町期の包含層，-1.17m褐灰色粘質土の地山に至る。地山上面で，柱穴１基，ピット３基を確認したが遺跡は極めて希薄。	45㎡	29N011
131	革嶋館跡	西京区川島玉頭町8-9他3筆	10/24	耕土直下GL-0.3mで地山を確認。顕著な遺構・遺物は確認できず。	66㎡	17S389
132	中久世遺跡	南区久世中久世町二丁目112	4/13	時期不明の南北溝，土坑，ピットを確認。	16㎡	16S629
133	福西古墳群	西京区大枝中山町3-3ほか	7/24	GL-0.5mで浅黄色砂質土（ニュータウン造成土），-0.7mでにぶい黄橙色砂泥の地山	16㎡	17S042
134	福西古墳群	西京区大枝東長町1-610	5/2	造成前の旧地形が北から南への急傾斜であったことを確認。地山検出レベルはGL-0.58～3.24m。	16㎡	16S595

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしくつちょうさほうこく
書　　名	京都市内遺跡試掘調査報告　平成29年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所 在 地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発 行 機 関	京都市文化市民局
所 在 地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発 行 年 月 日	西暦2018年３月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
平安京左京五条四坊十一町跡	京都市下京区 魚棚通烏丸東入 魚屋町241-1	26100	1	35度 00分 03秒	135度 45分 55秒	2017/9/5	50㎡	共同住宅
平安京右京九条一坊九町跡・西寺跡・唐橋遺跡	京都市南区 唐橋門脇町23	26100	1 755 756	34度 59分 00秒	135度 44分 19秒	2012/4/12	33㎡	福祉施設
仁和寺院家跡	京都市右京区 宇多野御池町6-2, 6-3	26100	891	35度 01分 39秒	135度 42分 39秒	2017/5/26 9/11～14	48㎡	共同住宅
寺町旧域	京都市上京区 中筋通石薬師下る 新光明町390-2他	26100	1 712	35度 01分 37秒	135度 46分 06秒	2017/6/22 8/29～9/7	156㎡	共同住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京左京五条四坊十一町跡	都城跡	平安時代	ピット 土坑 溝	土師器 須恵器 瓦器	
平安京右京九条一坊九町跡・西寺跡・唐橋遺跡	都城跡 寺院跡 集落跡	弥生時代 平安時代	掘立柱建物 溝	土師器 瓦	
仁和寺院家跡	寺院跡	平安時代 室町時代	ピット・土坑 溝	土師器 瓦器	
寺町旧域	寺院跡	桃山時代 ～江戸時代	ピット 土坑 井戸	土師器 陶磁器 瓦	

報 告 書 抄 録

ふ り が な	きょうとしないいせきしくつちょうさほうこく
書　　名	京都市内遺跡試掘調査報告　平成29年度
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	馬瀬智光・家原圭太・西森正晃・鈴木久史・奥井智子・新田和央・熊井亮介・熊谷舞子・黒須亜希子・清水早織
編 集 機 関	京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
所 在 地	〒604-8006　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町394番地　Y・J・Kビル2F
発 行 機 関	京都市文化市民局
所 在 地	〒604-8571　京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488番地
発行年月日	西暦2018年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
吉田泉殿町遺跡	京都市左京区吉田泉殿町34	26100	403	35度01分37秒	135度46分34秒	2017/8/31・9/1	33㎡	共同住宅
高台寺境内（雲居寺跡）	京都市東山区下河原町通八坂鳥居前下る下河原町526	26100	528	35度00分02秒	135度46分52秒	2017/2/16	9㎡	伽藍整備
長岡京左京三条三坊十六町跡	京都市伏見区久我西出町4-10	26100	3	34度46分23秒	135度43分10秒	2017/3/16	72㎡	工場

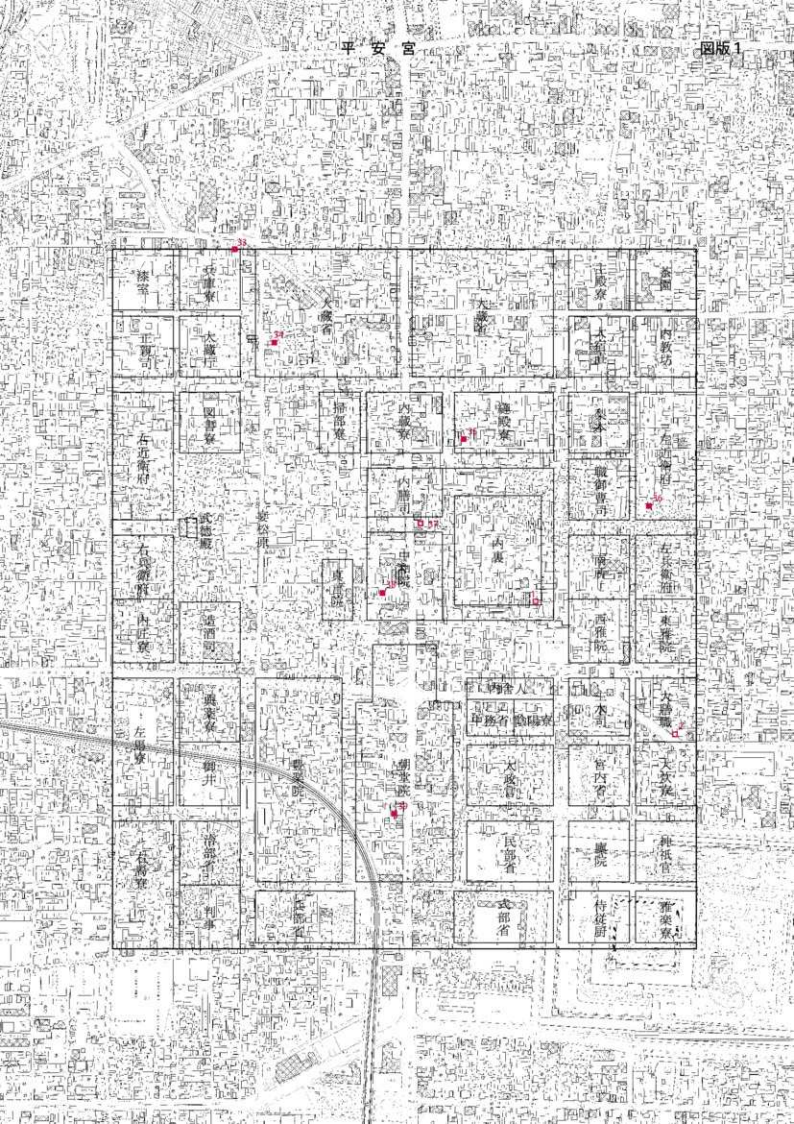
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
吉田泉殿町遺跡	邸宅跡	室町時代	溝	土師器	
高台寺境内（雲居寺跡）	寺院跡	江戸時代 平安時代	整地層 造成土	土師器・瓦	
長岡京左京三条三坊十六町跡	都城跡	奈良時代	溝 ピット	土師器 須恵器 瓦器	

図　　版

凡　　例

□　　平成 28 年 1 ～ 3 月　試掘調査地点

■　　平成 28 年 4 ～ 12 月　試掘調査地点


平安宮
陵寮
兵庫寮
大蔵省
正殿寮
大蔵寺
図書寮
右近衛府
掃部寮
内蔵寮
内膳
内裏
中務省
武器庫
右兵衛府
造酒司
内匠寮
左馬寮
織井
造宮寮
左馬寮
朝集院
大学寮
式部省
民部省
大蔵省
内省
中務省
内侍所
内蔵寮
内匠寮
内務省
内記
内蔵寮
内侍所
内蔵寮
内蔵寮
内蔵寮

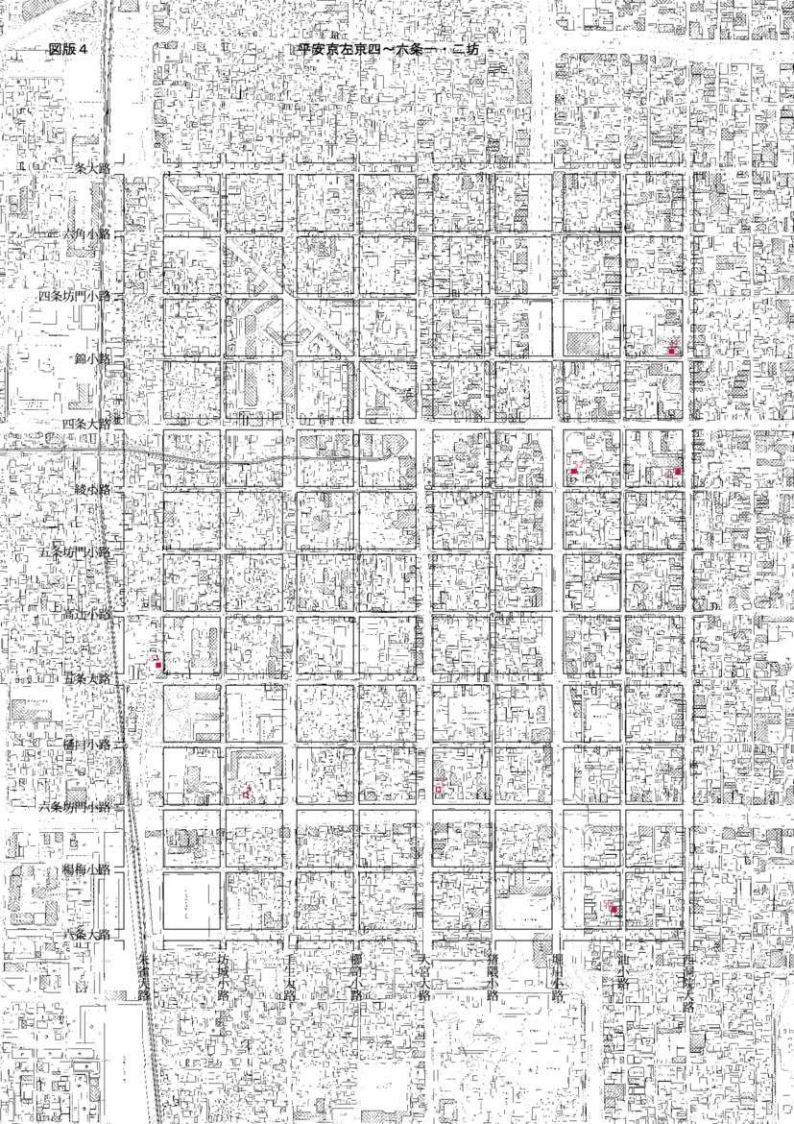
図版2

平安京左京北辺～三条一～二坊

平安京左京北辺～三条三・四坊

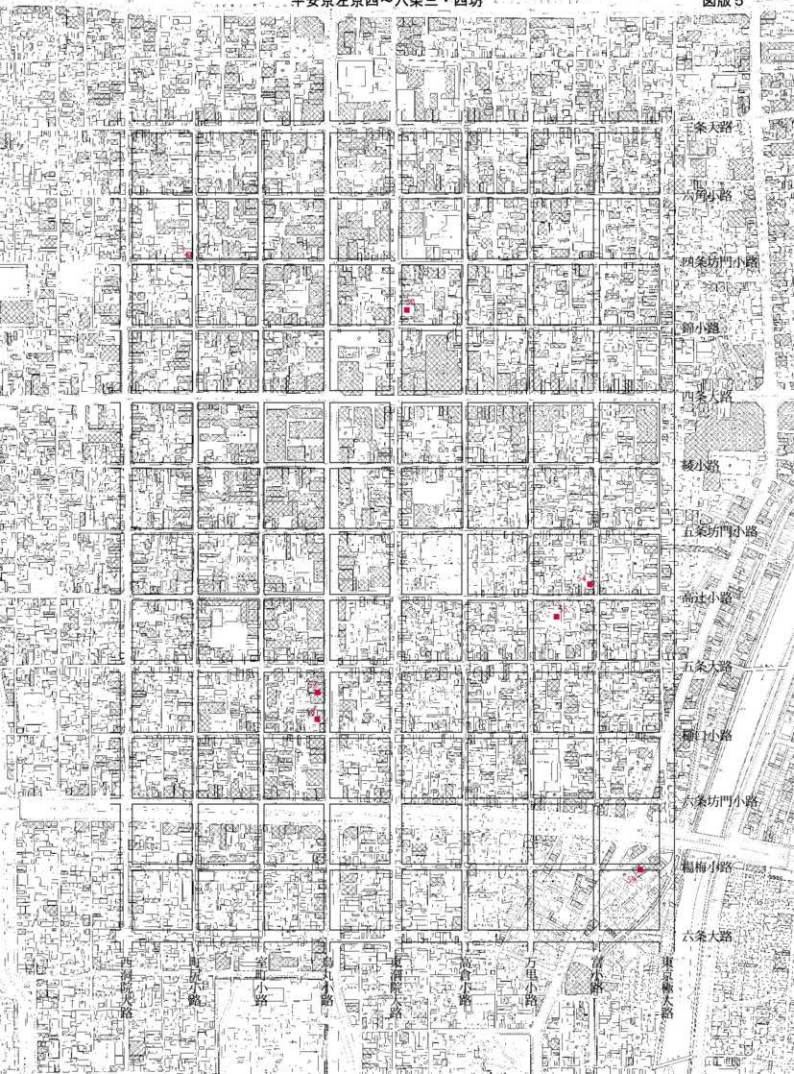
図版４

平安京左京四～六条一・二坊



平安京左京四～六条三・四坊

図版 5



図版6

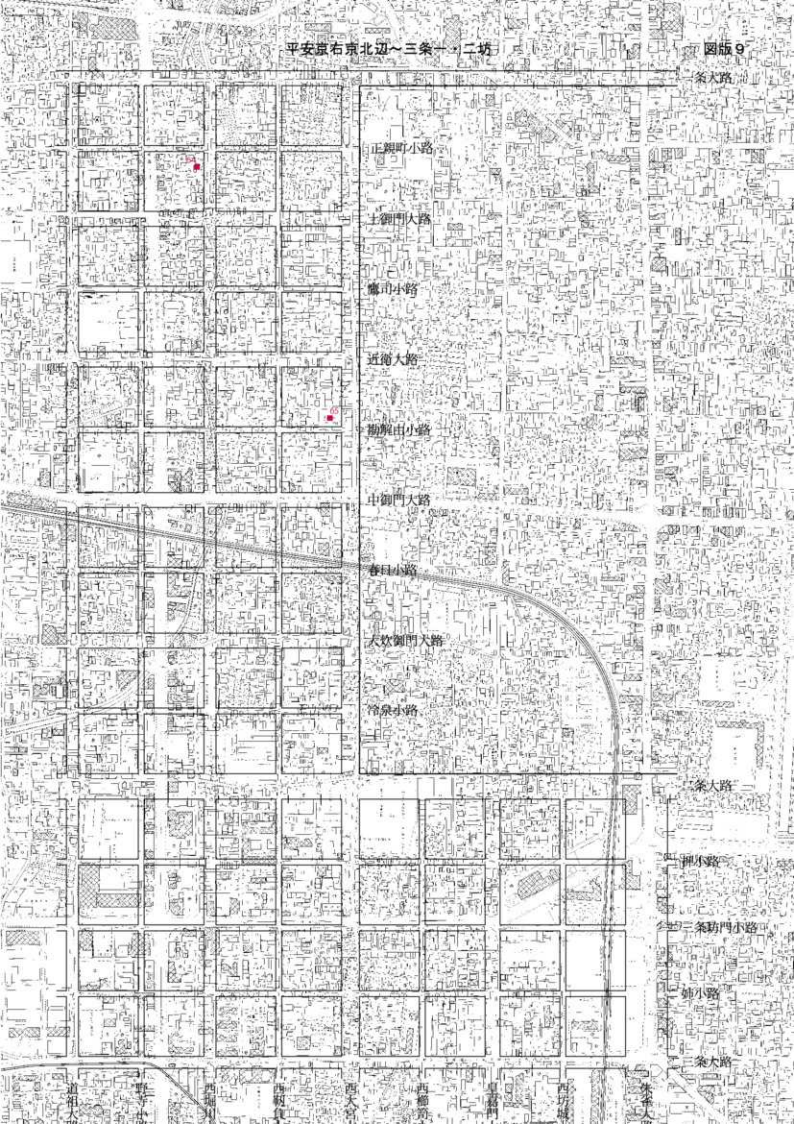
平安京左京七～九条一・二坊

六条大路
左女牛小路
七条坊門小路
北小路
七条大路
塩小路
八条坊門小路
梅小路
八条大路
針小路
九条坊門小路
信濃小路
九条大路
東京極大路
冷小路
厚東小路
高倉小路
東洞院小路
烏丸小路
室町小路
町尻小路
西洞院大路

図版 8

平安京右京北辺〜三条三・四坊

平安京右京北辺～三条一・二坊



図版10

平安京右京四条六条三・四坊

平安京右京四～六条一・二坊

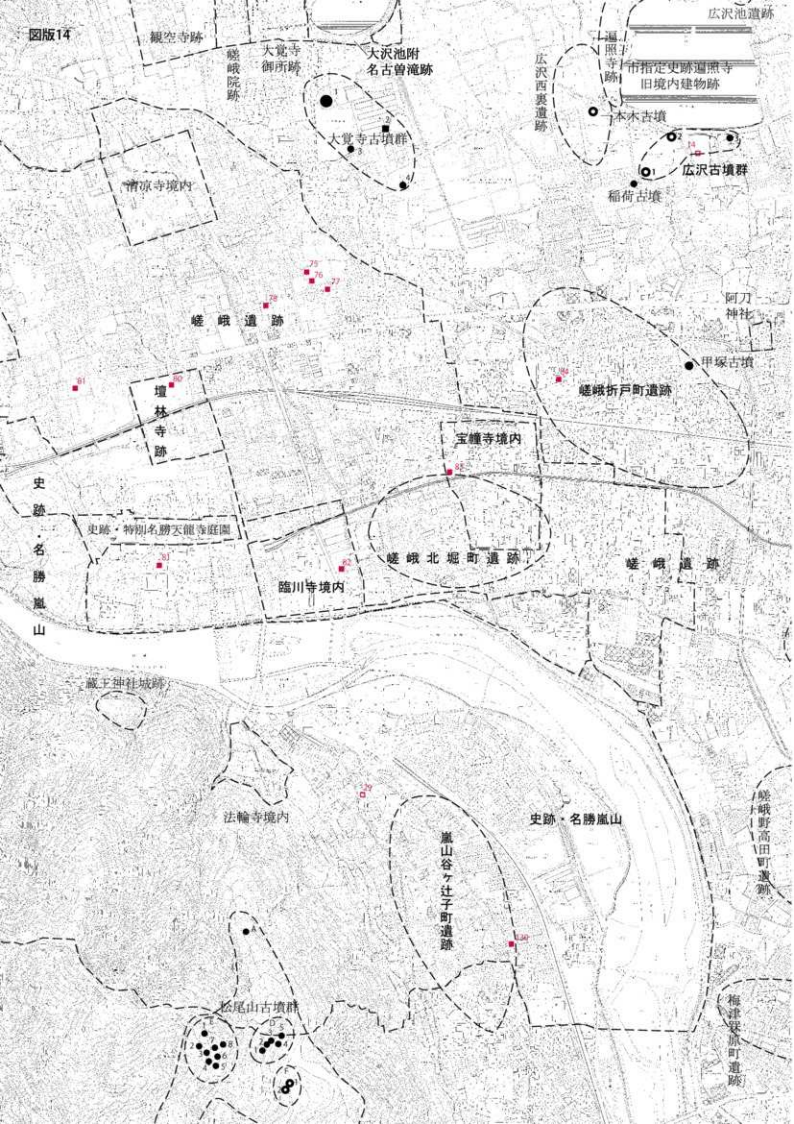
図版12

平安京右京七～九条三・四坊

平安京右京七～九条一・二坊

図版13

図版14


観空寺跡
嵯峨院跡
大覚寺御所跡
大沢池附名古曽滝跡
大覚寺古墳群
清涼寺境内
広沢西裏遺跡
温照寺跡
市指定史跡温照寺旧境内建物跡
広沢池遺跡
本木古墳
広沢古墳群
稲荷古墳
嵯峨遺跡
阿刀神社
甲塚古墳
嵯峨折戸町遺跡
壇林寺跡
宝幢寺境内
史跡・名勝嵐山
史跡・特別名勝天龍寺庭園
嵯峨北堀町遺跡
嵯峨遺跡
臨川寺境内
蔵王神社城跡
法輪寺境内
史跡・名勝嵐山
嵐山谷ヶ辻子町遺跡
嵯峨野高田町遺跡
松尾山古墳群
梅津畑ノ原町遺跡

図版1-5

史跡・名勝亀山

嵯峨遺跡

仁和寺院家跡

円乗寺跡

瓦山古墳群

名勝雙ヶ岡

南野古墳群

草木町遺跡

太秦馬塚町遺跡

常盤仲之町遺跡

上ノ段町遺跡

太秦馬塚古墳

大覚寺跡

山住神社

史跡賀茂別雷神社境内

神宮寺跡

沢田神社

天然記念物大田ノ沢のカキツバタ群落

市指定名勝西村家庭園

天然記念物深泥池生物群集

西山古墳群

深泥池窯跡

市指定名勝岩佐家庭園

植物園北遺跡

名木J窯跡

下鴨半木町遺跡

図版16

太徳寺旧境内
史跡太徳寺旧境内
霊林院跡
公家町遺跡
寺町旧域
平安京跡
法成寺跡
名勝
清水花見園
吉田泉殿町遺跡
吉田本町遺跡
吉田本松町遺跡
吉田橋町遺跡
北白川
追分町遺跡
吉田上大路町遺跡
聖護院川原町遺跡
白河街区跡
白河北殿跡
白河南殿跡
東光寺跡
名勝
平安神宮神苑
法勝寺跡
岡崎遺跡
史跡
南禅寺境内
蹴上浄水場

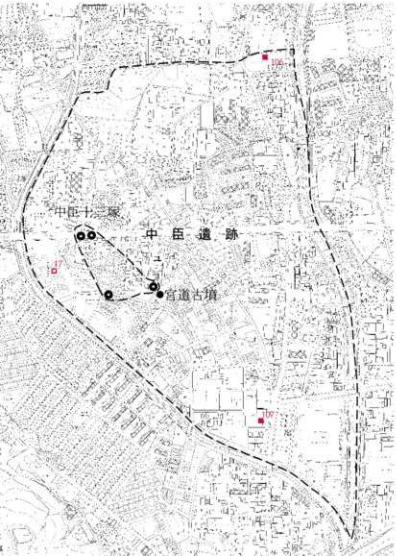
図版17

名勝
市指定史跡
八坂方墳
高台寺境内
(雲居寺跡)
法
観
寺
旧
境
内

法住寺殿跡
池田瓦窯跡

山科本願寺跡(寺内町遺跡)
蓮如上人墓
史跡山科本願寺跡
及び南殿跡

月輪遺跡
法 性 寺 跡
伏見稲荷大社
正覚寺跡
稲荷山
古墳群


中臣十三塚
中 臣 遺 跡
宮道古墳

勧修寺旧境内
市指定名勝
勧修寺庭園

極楽寺跡
春神山古墳
深草遺跡
道禅寺
境内
安楽行院跡

図版18

市指定名勝
極楽寺庭園

桂城跡

図版18

醍醐寺子院跡

史跡醍醐寺境内

醍醐廃寺

桃山古墳群
（永井久太郎古墳）

福島太夫遺跡

伏見城跡

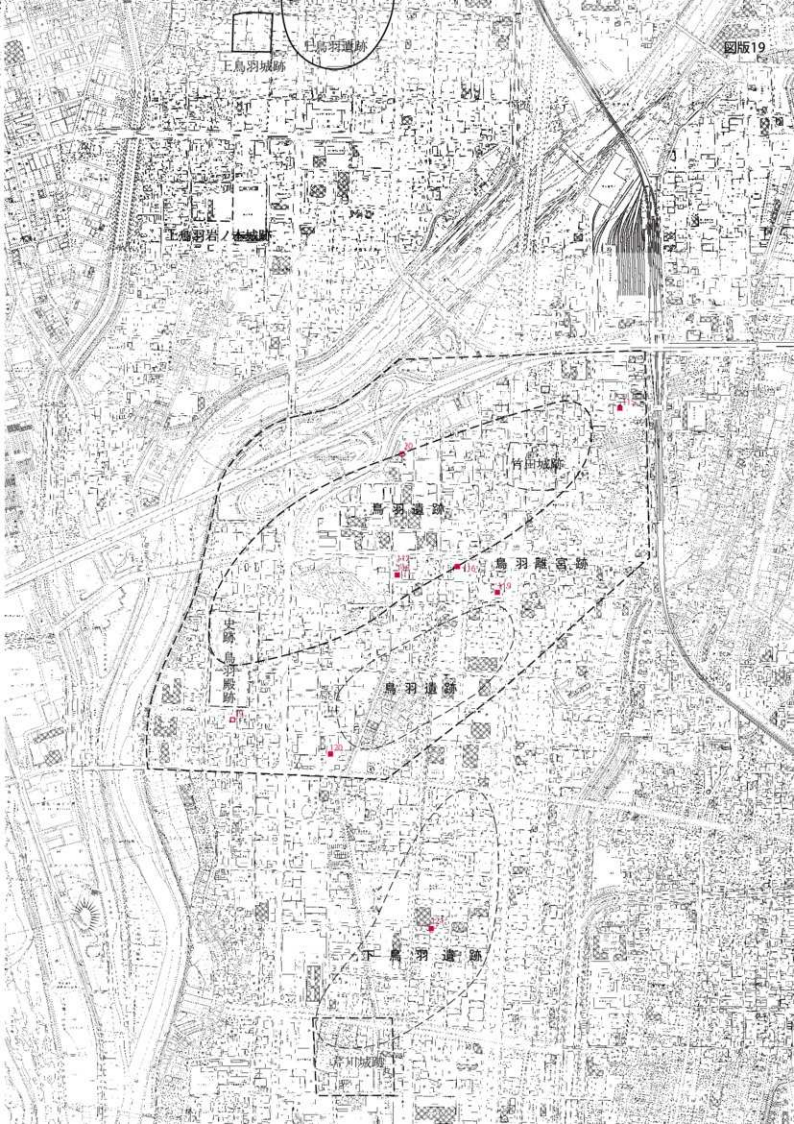
黄金塚２号墳

指西古墳群

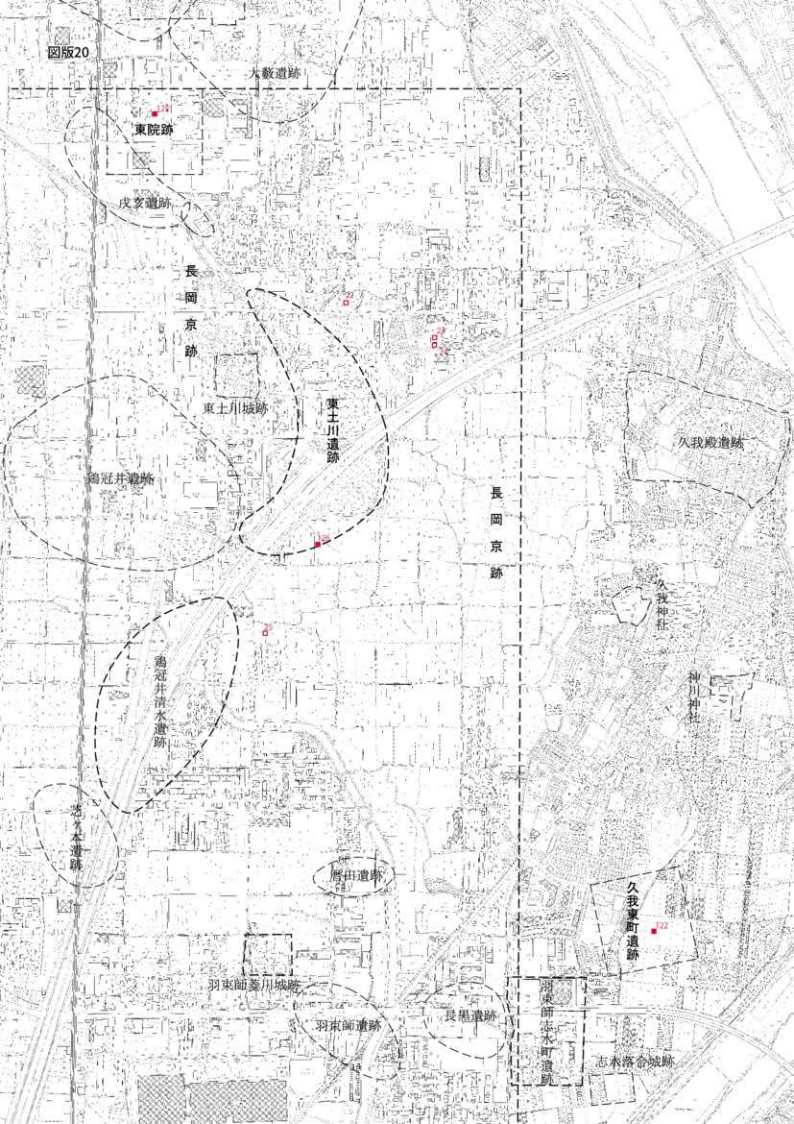
草嶋館跡

草嶋遺跡

不津林遺跡


上鳥羽城跡
上鳥羽遺跡
上鳥羽遺跡
鳥羽遺跡
鳥羽離宮跡
鳥羽遺跡
史跡 鳥羽離宮跡
下鳥羽遺跡
竹田城跡

図版20


九藪遺跡
東院跡
戊亥遺跡
長岡京跡
東土川城跡
東土川遺跡
鵜冠井遺跡
長岡京跡
久我殿遺跡
久我神社
神川神社
鵜冠井清水遺跡
苅谷本遺跡
暦田遺跡
久我東町遺跡
羽束師秦川城跡
羽束師遺跡
長黒遺跡
羽束師志水町遺跡
志水落合城跡

図版21

雲宮遺跡

水垂遺跡

水垂鞍山城跡

長岡京跡

淀水垂大下津町遺跡

旧淀城跡

與杵神社旧境内

下津城跡

淀城跡

美豆城跡

木津川河床遺跡

図版22

上久世遺跡
上久世城跡
綾戸國中神社
中久世遺跡
下久世城跡
下久世構跡
大藪遺跡

周山古墳群
低湿合遺跡
高梨遺跡
府指定
周山廃寺跡附窯跡
慈願寺経塚
高梨経塚
周山城跡

京都市内遺跡試掘調査報告
平成２９年度

発行日　２０１８年３月３１日
発　行　京都市文化市民局
編　集　京都市文化市民局　文化芸術都市推進室　文化財保護課
住　所　京都市中京区河原町通御池下る下丸屋町３９４番地
Ｙ・Ｊ・Ｋビル２階
TEL.（０７５）３６６－１４９８
印　刷　株式会社　昭英社
TEL.（０７５）３５１－１８１１